

臣ハ日英米三ヶ国ハ既ニ批准ヲ了シタルモ仏伊両国ハ内政上ノ関係ヨリ批准未了ノ為未タ批准書ノ寄託ヲナス能ハサルモ日英米三国ハ将来ノ実施ヲ予期シテ實質上ノ準備的措置ヲ執リ居ルコトヲ具体的事実ニツキ説明シ尚万一千仏伊両国ノ批准カ非常遲延シ又ハ拒絕サルル場合ニ於テハ日英米三国間限リ本条約ヲ実施シ得ルコトノ可能ナルヲ確信シ居ルコトヲ附加説明セル處坂本氏ハ日英同盟ニ関係ヲ有スル太平洋ニ關スル四国條約中ヨリモ仏国ヲ離スコトヲ得ルヤト質問アリ大臣ハ既ニ日英米三国間ニ海軍制限協定可能ナル以上右ノ四国條約ヲ三国條約ニ改ムルコトモ亦可能ナリト説明セリ

右ニテ会談終リタルカ公正会委員ハ尚質問シタキ点アルモ今日ハ時間モ遅クナレリ更ニ会見ノ機会ヲ与ヘラレタシト懇請シ本日ノ会見ニテ政府ノ方針大ニ明瞭トナリ満足セリトテ辞去セリ

二九七 十二月二十三日

瀧川神戸商業會議所会頭ヨリ

内田外務大臣宛

日露通商條約締結促進ニ關スル建議ノ件

(十二月二十七日接受)

我對露通商關係ハ露國政變以來全ク阻止セラレ帝國臣民ガ多年開發セル企業並ニ貿易ハ今ヤ根柢ヨリ覆サレツツアルノ状態ニアリ元來露國ハ地域廣大ニシテ單ニ一衣帶水ノ西伯利亞ノミヲ以テスルモ其面積我全領土ノ約二十倍ニ当リ農、林、鉱、漁等幾多ノ天然資源ニ充チ列國ノ等シク羨望スル所ナルト共ニ露國モ亦之ガ開發ヲ外邦ニ求メ一面物資ノ供給ヲ海外ニ俟チツツアルノ状態ニアリ然ルニ西伯利亞撤兵断行セラレ益々經濟力ノ伸暢ヲ要スルノ秋吾人貿易業者ハ此機ヲ逸スルコトナク對露通商ノ回復ト促進トヲ図リ其実現ヲ期スルハ両國共存、共榮ノ永遠策ナリト信ジ本所ハ茲ニ總会一致ノ決議ニ仍リ之ガ対策トシテ速ニ政府ニテ両國通商條約ヲ締結シ一日モ速ニ我ガ對露企業並ニ通商ヲ統率扶掖セラレントヲ切望シ右建議候也

大正拾壹年拾貳月貳拾參日

神戸商業會議所会頭 潤川 儀作 (印)

外務大臣伯爵

内田 康哉殿

事項一五 露國反過激派關係雜件

二九八 一月一日

内田外務大臣ヨリ
在浦潮松村總領事宛 (電報)

親米政權ヲ浦潮ニ樹立セントノ米国人ノ策動

第一六号

最近浦潮内閣ノ動搖ニ關シ第六戰隊司令官ヨリ海軍側ヘノ報告ニ依レバ米国人ハ親米政權ヲ樹立セシメンガ為英米人間ニ知己多ク曩ニ英國領事館ニ勤務シタル「セ」配下「ホーツキン」大佐ニ旨ヲ含メ「セ」派タル極右党分子買収ニ手ヲ尽シツツアリトノ説アル趣ナルガ右真相至急取調ノ上電報アリタシ

永井ヘ伝ヘラレタシ

スル件

合第一四号

天津伊太利租界ニ滯在中ナリシカ「セメヨノフ」ハ一月六日哈爾賓ニ向ケ出発シタル由ナルガ右ニ關シ浦潮派遣軍ハ目下内外各方面ヨリ軍ガ白党ヲ支援セリトノ疑惑ヲ蒙リアル折柄「セ」ノ來哈ラ迷惑トスルノミナラズ曩ニ彼レガ浦潮ヲ去ルニ當リ軍ニ對シ日本軍ガ東部悉比利ニ駐屯スル間其地域ニ帰ラザルコトヲ誓約セルニヨリ若シ彼レガ軍行動地域ニ出入スル如キ場合ハ斷乎タル行動ヲ採ル旨同軍ヨリ陸軍側ヘ電報アリタリ

(奉天ヘハ「北京、長春、哈爾賓ヘ転電シハ爾賓ヨリ浦潮ヘ転電セシメラレタシ」ヲ加フ)

三〇〇 一月十七日

在浦潮松村總領事ヨリ
内田外務大臣宛 (電報)

親米政權ヲ浦潮ニ樹立セントノ米国人ノ策動

二九九 一月十四日

内田外務大臣ヨリ
在奉天赤塚總領事
華盛頓會議代表領事
各宛 (電報)

天津發哈爾賓ニ向ヒタルセメノフガ浦潮派遣

軍行動地域ニ出入スル場合ノ同軍ノ措置ニ關

一五 露國反過激派關係雜件

二九八 二九九 三〇〇

三九五

一五 露国反過激派関係雑件 三〇一

(一月十七日接受)

第一五号

貴電第一六号ニ関シ当地政権筋ニ就キ真相取調べタル処米国人等ノ親米政権樹立計画説ハ全然無根ノ風説ニシテ当地方ニ於ケル極右党分子ハ極メテ少數ナルモ意志強固ニシテ他ヨリ買収セラルルガ如キコト断ジテ無シトノ政府筋ノ所言ハ真実ナルモノト認メラル

尚且下当地内閣動搖説頻ナル処国民議会ノ政府反対党ハ最近政府が同議会ノ休会中(二月十五日迄)ナルニ乘ジ本邦人トノ五百萬円借款契約(既報山口、大井借款)及阿片專売權附与(客年十一月日鮮人協同團ニ一ヶ年三十万円ノ税金納入ノ条件ニテ阿片專売權ヲ附与セリ)等ノ重大問題ヲ議会ノ協賛ヲ待タズシテ取極メタルハ不法ナルノミナラズ

政府ハ近々更ニ某々日本人等ニ煙草ノ專賣權ヲモ附与セントスル意向アルヲ聞キ政府ノ專斷横暴捨置キ難シトナシ政府ノ不信ヲ鳴シ居ル折柄財政部長「リホイドフ」(元「ハバロフスク」市長)ハ政府財政ノ窮乏甚シク遺練ツカズトテ内閣議長「イワノフ」ト共ニ嚮ニ辞表ヲ提出シ他ノ閣員モ義理合上同様連袂辞表ヲ提出スルニ至リタルヨリ前顧政府反対党ノ政府非難ノ事情ト合セテ内閣動搖ノ風説ヲ釀シ

三九六

タル次第ニテ政府反対議員中ニハ一、二親米説ヲ唱フルモノアルヨリ自然親米政府云々ノ誤伝モ生ジタルモノナル

ベシ而シテ「メルクロフ」ハ反対党員ニ対シ追テ当地ニ召集セラルベキ憲法議会ニテハ憲法ヲ以テ一切ノ行政事項ヲ議会ノ協賛ヲ待チテ執行スベキハ勿論ニシテ必要ナルモ今日ノ如キ諸事紛糾セル時ニ当リ場合ニヨリ政府ガ専断的ニ処決スルハ止ムヲ得ザルナリ由来口舌冗長ノ嫌アル露国人ガ議会ニ於テ審議決定スル如キハ平和時代ニ執ルベキ形式ニシテ政府ノ創立後日尚浅ク諸般ノ是非ヲ決スルニ敏活迅速ヲ要スル今日ハ臨機ノ措置ヲ以テ之ニ適応セシムルヲ要ス云々ト弁明シ居ル趣ナリ御参考迄右申添フ

三〇一 一月十七日

在浦潮松村總領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

後貝加爾方面へ出馬ノ為天津ヲ出発セルセメ ノフノ動向ニ関スル浦潮政府筋ノ意向報告ノ件

第一六号

(一月十七日接受)

貴電合第一四号ニ関シ一月十六日當館々員ガ政府筋ヨリ聞キ得タル所ニ依レバ「セメノフ」ハ最近後貝加爾州方面ニ反共產党熱漸ク旺盛ナラントスル形勢アルニ乘ジ同方面ニ

出馬ノ目的ヲ以テ既ニ天津ヲ出發シタルガ同人ノ哈爾賓迄ノ旅行ニ付テハ現東支鐵道長官「オストロウーモフ」ガ大ニ之ガ斡旋ノ勞ヲ取り「セ」ノ為ニ特別「ワゴン」ヲ用意スル等「セ」援助ノ形跡顯著ナルガ「メルクロフ」政権トシテハ目下後貝加爾州内住民間ニ反過激派熱盛ナル折柄同州民ノ蛇蝎視シ過激派以上ニ嫌ヒ居ル「セ」ガ出動スル如キコトアラバ州民ハ再ビ過激派ニ寢返リ打ツコト明瞭ニテ「メ」政権ノ勢力拡張上非常ナル障害ニテ迷惑少カラズ尤モ「セ」ガ沿海州ニ入り込ム野心ヲ起スガ如キ場合ニハ極力之ヲ阻止スベシト称シ居ル趣ナリ御参考迄

北京、長春、奉天、哈爾賓ニ電報済

三〇一 三月六日 内田外務大臣ヨリ
松島政務部長(大連出張中)宛(電報)

極東露沿海漁業ニ關シ我方ノ浦潮政権ト協定ノ顛末ヲ齊多政府側ニ諒得セシムル様訓令

ノ件

第九〇号

貴電第六四号ニ関シ

帝国政府ハ齊多側トノ交渉開始前ヨリ本邦人カ浦潮政権ト

一五 露國反過激派関係雑件 三〇一

三九七

各種利権ニ関スル契約ヲ締結セムトスルニ方リテハ之ヲ「ディスカレヂ」スル方針ニ出テ爾來是等ニ就テ何等公式交渉ヲ為シタルコト無キハ齊多側ニ於テモ篤ト承知ノコトト思考ス然シ乍ラ漁業権ハ露國ノ政變以前既ニ遠ク日露講和条約ニ依リ賦与セラレタル權利ナル処露國政情ノ紛乱セル今日之カ實行ニ關シテハ漁業ノ行ハルヘキ地方ヲ事實上支配シ居ル政権者ト了解ヲ遂クルニ非サレハ右権利ノ實行ハ到底不可能ナリ故ニ已ムヲ得サル一時ノ便法トシテ事實上ノ政権ト本年度限リノ出漁方策ヲ交渉シタル次第ナリ尤「ペトロフ」ノ所謂自主的出漁ノ方途アルヘシト雖「アントーノフ」時代ニ於テ右措置ニ出テタルハ同政権カ漁業者ノ不安ニ關シ適當ノ手段ヲ講スルノ誠意ヲ有セス又「オコーツク」堪察加方面ニ關シテハ労農政府ノ直轄ニ帰セリト為シ競売ヲ執行セスシテ我漁業権ノ実行ヲ事実不可能ナラシメントシタルヲ以テ万已ムヲ得サルニ因レリ然ルニ「オコーツク」堪察加沿岸ヲ事実上自己ノ支配ノ下ニ置キ且我當業者ノ漁業ニ對シ保護監督ノ責ニ任スルノ意思ヲ明示シテ漁業協約ニ依リ競売ヲ為シ度キ旨浦潮政権ヨリ申来レルニ対シ之ヲ無視シテ自主的出漁ヲ為スハ我漁業権ノ実行カ

事実不可能ニ陥ルヘキ緊急ノ危険突発スル場合ニ於テノミ考量セラルヘキモノニシテ然ラサル限り不穏当ナル可ク右ハ地ヲ替ヘテ齊多政権カ沿海州ヲ支配スル場合日本漁業者カ自由出漁ヲ為スコトヲ想像セハ日本政府ノ公明ナル態度

ハ「ペトロフ」ト雖容易ニ之ヲ諒得ス可シト思考ス加之競売ニ依ルニ非サレハ新タニ漁区ヲ獲得スルノ途ナク從テ漁業ノ發展ヲ策スルコトヲ得サルハ漁業者ノ苦痛トスル所ナリ就テハ右ノ趣旨ニ基キ在浦潮總領事ヲシテ「メ」政権ニ

対シ「オムスク」政府ト協議決定シタル日露漁業協約及附屬議定書並從來享有スル権利ノ効力維持ニ関スル確認取極ハ同政権ニ於テモ之ヲ有効ト認メシメタル外

第一 漁区借区料ハ之ヲ或期間内露国官憲ヲシテ特定ノ銀行ニ供託セシムルコト即チ

(一) 日本漁業者ヨリ競売ノ際支払フヘキ借区料ノ半額ニ相当スル保証金及短期競落漁区ノ上半期借区料並便宜上同時期ニ納入スル長期漁区ニ對スル大正九年度下半期借区料及本年度ノ上半期借区料ハ之ヲ孰レモ日本政府及浦潮政権ニ於テ協定スヘキ適當ト認ムル銀行ニ供託スルコト

(二) 前項供託金ノ内其ノ一分ノ一ハ漁業監督員其ノ他ノ經行ニ供託セシムルコト即チ

費ニ充当スル為浦潮官憲ニ於テ之ヲ引出シ单独ニ処分スルコトヲ得ルモ残リ二分ノ一ハ當該年度ノ漁業カ完全ニ終了シタル上浦潮政権ニ於テ之ヲ処分スルコトヲ得ルコト

第二 漁区表發表ノ際漁区競売ノ最低価格ヲ公表スルコト第三 日露漁業協約第十一條ノ規定ニ依ル航海証書其ノ他漁業者ノ必要トスル諸證明ヲ敏速発給スル為浦潮政権ヨリ航海期間中本邦露国領事館へ必要ナル官吏ヲ補充スルコト

第四 冬期間漁区ノ建設物看守又ハ翌年漁業準備ノ為ニ漁区ニ日本人越年ヲ許容スルコト

ニ今般愈々協議纏リ浦潮政権ニ於テ漁業協約ノ規定ニ依リ来る三月下旬漁区ノ競売ヲ為スコトニ決定シタリ

帝国政府ノ態度前顧ノ通ナル処「メ」政権ト交渉ヲ為以上漁業ノ保護監督等ニ関シ相當費用モ要スルコトニモアリ旁々借区料金ノ一部ヲ之ニ交付スルハ已ムヲ得サル所ナリ然ルニ右金額ハ全借区料ノ二分ノ一ニ過キス從テ近キ将来ニ於テ齊多側ノ勢力極東露領全沿岸ニ及フモノトセハ借区料金ノ一半ハ齊多側ノ手ニ帰スヘキ旨ヲ特ニ説明相成如上我方ノ立場ヲ諒得セシメラルト共ニ前顧協定成立ノ事實

ハ齊多側ニ於テモ之ヲ認メ一旦齊多側ニ於テ前記方面ニ對シ勢力ヲ得ルニ至リタル場合前顧協定ヲ尊重シ我當業者ノ

漁業ニ付テハ充分ナル保護ノ責ニ任スルコトヲ帝国政府ハ要求スル旨ヲ附加申入レラレタシ

註 二月十七日松島政務部長發外務大臣宛第六四号ハ大連會議ノ項ニ採録シアリ

三〇三 三月十三日 内田外務大臣ヨリ 在米國幣原大使宛（電報）

浦潮政情ニ關シ通報ノ件

第一〇七号

浦潮極右党対「マルクーロフ」意見ノ衝突、議会内ニ於ケル反政府党側ノ「メ」ノ專横ニ對スル批難攻撃乃至財政行詰リニ基ク藏相ノ辭任等ハ本年一月十日「イワノフ」内閣ノ總辭職（陸海軍及会計監督ノ一部長ヲ除ク）問題ヲ惹起シ一時ハ政變説ナヘ伝ヘラレタルガ當時「メ」一派カ強硬ナリシ為非社會党反「メ」派ノ讓歩ニヨリ閣員一時留任ノ事トナリ一月二十三日臨時議会ノ召集ヲ見タルモ院内反政府党ハ依然財政窮迫及「メ」政権ノ秕政ヲ攻撃シ中央党並ニ右党一部間ニ反「メ」排日的傾向ヲ昂メタルガ議会ハ其

註 本電写ヲ外務大臣ヨリ在中国小幡公使ヘ郵送セリ

一五 露国反過激派関係雑件 三〇三 三〇四

三〇四 三月十五日 松島政務部長（大連出張中）ヨリ

内田外務大臣宛（電報）

三九九

露国沿海漁業関係我方浦潮政権間協定ニ付資

多側代表ベトロフヘ説明シ之ニ対スル同人ノ

回答ニ就キ請訓ノ件

別電一 同日松島政務部長発内田外務大臣宛第六八号

右ベトロフヨリノ回答要領

二 同日松島政務部長発内田外務大臣宛第六九号

右ベトロフノ回答ニ対シ重ネテ我方ノ立場ヲ

説明スル案文

第六七号
(三月十六日接受)

貴電第九〇号ニ閲シ

本件ニ就テハ往電第六一號ノ通本官ヨリ一応「ベトロフ」
ニ答ヘ置キタルガ目下彼等ガ星ヶ浦ニ移転シ居ル関係上貴
電御來示ノ趣旨ヲ口上書ニ認メ三月十日「ベトロフ」ニ送
付シ置キタル処三月十四日別電第六八號ノ通回答ニ接セリ
就テハ別電第六九號ノ通重ネテ當方ノ立場ヲ明ニスル為說
明スル必要アリト思考ス何分ノ儀御電訓ヲ請フ
永井ヘ転電シ松村ヘ示達シメタリ

註 二月十日松島政務部長發第六一號省略セリ右ハ我方浦潮政
權トノ漁業関係協定ノ已ムヲ得ザルコトヲ「ベトロフ」ニ

(別電一)
説明シタルコトヲ報告セル電報ナリ

三月十五日松島政務部長發内田外務大臣宛電報第六八号

答要領

第六八号別電
(三月十六日接受)

齊多側口上書要領

齊多代表ハ事實上ノ状態ガ日本政府ヲシテ沿海州ニ於ケル
事実上ノ権力者ト交渉スルノ已ムヲ得ザルニ至ラシムトノ
議論ニ服スル能ハズ齊多代表ハ疾クニ一般漁業問題就中本
年漁期ノ問題解決ノ必要ヲ説キ之ガ為屢々漁業委員会開催
ヲ提議シ且労農政府代表ノ參加ヲ求メ而シテ右代表ハ既ニ
三ヶ月ノ久シキ漁業委員会ノ開催ヲ待チ居レリ然ルニ日本
代表ハ形式上ノ關係ヨリ今日迄右提議ヲ拒否シ居レリ
惟フニ日本政府今回ノ措置ハ本年ノ漁業問題スラモ適當ニ
解決スルコト能ハザルベシ浦潮政権ハ一ノ横領者ニシテ正
当ノモノニ非ズ勿論同政権ト締セル契約ハ法律上ノ効力
無ク日本漁業者ノ利益ヲ保障スルモノニ非ズ故ニ極東共和
國竝労農政府ニ對シ何等義務ヲ負ハシムルコト無シ同様漁

業者ノ納入金ハ無効タルベシ

航海証明書發給方ニ閲シ齊多代表ハ現今日本領域内ニハ極
東共和国及労農政府何レノ正式領事館ト雖存在セザルコト
ヲ声明ス所謂露國領事ノ名ニ於テ行動セル者ハ齊多「モス
コー」両政府ニ於テ之ヲ自称領事ト認ムベシ從ツテ其ノ發
給ニ係ル証明書ハ法律上何等ノ価値無キモノナリ
齊多代表ハ日本漁業者ガ極メテ困難ナル状態ニ陥ルベキヲ
諒トスルモ總テ其ノ責ニ任ゼザルベシ蓋シ齊多側トシテハ
斯カル困難ナル状態ヲ未然ニ防グ為有ラユル手段ヲ講ジタ
レバナリ然レドモ日本漁業家竝ニ国民ノ利害ニ顧ミ齊多代
表ハ本年度漁業問題竝ニ期限満了ノ漁業協約改訂ノ為速ニ
労農政府代表ノ參加セル漁業委員会ヲ開催センコトヲ重ネ
テ提議ス

(別電二)

三月十五日松島政務部長發内田外務大臣宛電報第六九号

齊多側代表「ベトロフ」ノ回答ニ対シ重ネテ我方ノ立場ヲ説

明スル案文

第六九号別電
(三月十六日接受)

齊多代表ハ極東共和国ト日本國トノ間ニ漁業協約成立セバ

一五 露国反過激派関係雑件 三〇四

尚日本政府ガ前記ノ事情ノ下ニ不得已日本漁業家ヲ漁区競
売ニ参加セシムルニ当リ租借料拵込ニ閲シ加ヘタル条件ニ
依リ浦潮政権ハ差当リ租借料ノ一部ヲ費消シ得ルノミナル
ヲ希望スルモノナリ

ガ若シ日本漁業家ノ参加ナクシテ競売ヲ施行シタリトセバ
浦潮政權ハ其ノ欲スル儘ニ租借料ヲ徵收費消シ得ベシ故ニ
漁期終了前ニ斉多政權ニシテ浦潮ニ及ブモノトセバ日本漁
業家ノ競売参加ハ斉多政權ノ利益タルベシ

日本漁業者ガ浦潮政權ノ漁区競売ニ参加スル以上航海証書
其他ノ書類ヲ要スルヲ以テ之ヲ發給スペキ官吏ノ派遣ヲ求
メタルハ便宜ノ措置ニシテ正式領事ノ駐在ヲ認メタルニ非
ズ

三〇五 三月十八日 (内田外務大臣ヨリ)
松島政務部長(大連出張中)宛 (電報)

露国沿海漁業ニ関シ斉多側代表ニ我方ノ立場

説明ノ案文是認ノ件

第九一号

貴電第六七号ニ関シ貴電第六九号ノ通り回答シ置カレタシ

三〇六 三月二十四日 (内田外務大臣ヨリ)
松島政務部長(大連出張中)宛 (電報)

極東露領沿海漁業ノ漁区借区料ニ付回電ノ件

第九八号

註 松島政務部長三月二十三日発合第九〇号ハ大連會議ノ項ニ

採録シアリ

三〇七 三月二十九日 (在浦潮松村總領事ヨリ)
内田外務大臣宛

浦潮在留邦人ノ白軍援助ノ為ノ日中人混成義
勇軍組織ノ計画ニ關スル件 (四月五日接受)

機密第三三号

大正十一年三月二十九日

在浦潮斯德

總領事 松村 貞雄 (印)

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

客月中当地政權ノ所謂白軍ガ赤軍ノ圧迫ニ堪ヘズ「ハバロ
フスク」市方面ヨリ撤退南下シ白軍ノ旗色日々振ハザリシ

當時当地在住本邦人福田弥三郎同駒田信夫等ハ二、三同志

ト謀リ此際日支人ノ義勇軍ヲ組織シ州内ノ支那馬賊ト聯絡

シテ隠ニ白軍ヲ援助シ赤軍ニ対シ奇襲ヲ試ミンコトヲ企図

シ之ニ対スル報酬支出方「メルクローフ」政權當局ニ申込

ミタルニ「メ」政權ハ秘カニ之ヲ承諾シタル形跡アル旨當

地憲兵隊ヨリ本官ニ内報ノ次第有之タル処軍司令部側ニ於

テモ右ノ事実ヲ探知シ本邦人此種ノ行動ハ第三者ニ何等猜

疑ノ種因ヲ与フルノ虞アリトテ頗ル迷惑ヲ感ジ居ル趣内聞
アリ本官ニ於テモ此際此種邦人ノ行動ハ第三者ニ疑惑ヲ与

フルハ別トシ少クトモ一層時局ヲ紛糾セシムルモノニシテ

貴電合第九〇号中漁区借区料ノ件ニ關シ本年度ノ漁業ニ関
シ「メ」政權ト交渉ノ件ハ既報ノ通ナル處漁業者ヨリ納入
スル借区料額ハ本年競爭入札ノ際羅上ゲノ如何ニ依リ變化
アル次第ナルヲ以テ確定的数ハ不明ナルモ大約式百万円ト
ナルベク果シテ然リトスレバ其二分ノ一ハ漁業終了マデ供
託スル次第ナルニ付約卷百万円ト見積リ大差ナカルベシ尚
貴電末段ノ前々年度即チ大正九年度ノ下半期分ニ關シテハ
元来前年度ノ下半期分ハ毎年三月競売ノ際納付スル慣例ナ
ル處昨年ハ浦潮ニ漁区ノ競賣ナク自治出漁トナリタル為右
九年度ノ下半期分ハ未納トナリタリ右ニ付テハ前記從來ノ
慣例ニ基キ本年ノ競賣期ニ際シ「メ」政權当事者へ納付ス
ルコトニ「メ」政權ト諒解済ナルニ付今之ヲ拒絶シ難シ從
テ仮リニ今後斉多政府ガ浦潮政府ヨリ政權ヲ譲受クルコト
アリトセバ後者ニ交付スペキモノヲ前者ニ交付スルコトト
ナル筋合ナリ

三〇八 四月七日 在紐育熊崎總領事ヨリ

内田外務大臣宛 (電報)

セメノフ大統領に於テ概要ヤハシタニサニ

報知ノ社

第七八号

(四月八日發行)

於テ結婚州大審院判事ノ令状ニ依リ逮捕サンタルヤ同人友

人等ノ努力ニ依リ保釈金二万五千弗ヲ出シ入獄ヲ免セハ
タコム右ニ閱シ当地新聞紙ノ報道ニ依レ、逮捕ノ理由ハ曩ニ「ヤメハハ」ガ当地米國商企ニシテ蘇聯ニ於テヤ漁業ハ
ハシトニハ Yourovata Home and Foreign Companyノ商品ヲ掠奪シタル為前記商企、一九一一年因テ中立權實質
ニ於テ訴訟ヲ提起シ同年十一月廿日裁平確定ノ結果「ヤメハ
ハ」ヘ米貨約五十萬弗ノ支払ラ命セリ、タルヤウニ果ナキ
リシ為今回前記商企清算人 John N. Boyle ハル者之カ
支払強制方大審院ニ語クタルノ依ル趣ナリ尚右訴訟ニ付前西比利亞米國軍司令官 Graves ハル及ニ聯合國鐵道委員
タコム Charles H. Smith キ「ヤメハハ」ヘ西比利亞
ニ於ケル行動ヲ以テ bandit ノ行為ヘシ個人的責任ヲ負
ハキセノナコムヘ口共ニ為セル血証シタニ

在米大使ヘ郵送ヤハ

三〇六 四月八日

極東共和國外務大臣ヤハシハ内田外務大臣宛

極東蘇聯領洋漁業ノ漁区競売ノ事

TO THE MINISTER OF FOREIGN AFFAIRS OF

THE IMPERIAL JAPANESE GOVERNMENT.

Monsieur le Ministre,

The Government of the Far Eastern Republic regrets to learn of the fact that the Japanese Administrative Bureau set the date of the 28th April for a public competition for the lease of the Russian fisheries in the Amur river and its estuary, Northern Saghalin and the De Kastri Bay.

The Japanese Government declared that the temporary occupation by Japanese military forces of Nikolaevsk on Amur and the Saghalin Island

is undertaken with the sole object of protecting Japanese residents and their properties there. The said declaration was understood to mean that the interests of the Republic and its citizens in the occupied districts would not be violated.

The above declaration was substantiated by the announcement made by Mr. Shidehara at the Washington Conference on behalf of the Japanese Government, that the principles of non-interference in the internal affairs of the Far Eastern Republic and the nonviolation of the integrity of the Republic would be respected.

The Government of the Far Eastern Republic fails to see, however, how the present intentions of the Japanese Government regarding the Russian fisheries could be reconciled with the above declaration.

On the 25th January, 1921 the Council of the Chiefs of the Governmental Departments in Vla-

divostok passed a resolution for the prolongation of the leases on Russian fisheries to the lease holders who suffered considerable material losses from the Nikolaevsk events. This privilege was extended to both Russian as well as Japanese lease holders.

This act of an authorized official institution of the Far Eastern Republic was recognized by the latter who justly expected that the Japanese Government guided by the principle of non-interference would also respect the above mentioned act.

The Government of the Far Eastern Republic has repeatedly manifested its sincere desire to settle all questions, including the rights of fishing in the waters of the Russian Far East, between itself and the Japanese Government in a peaceful and mutually satisfactory manner. Unfortunately all endeavors on the part of the Government of the

Republic have not met with the expected and desired support and encouragement from the Japanese Government.

The above act of the Japanese Administrative Bureau not being based on or justified by any agreements or treaties between the two Governments may lead to believe that the Imperial Japanese Government is pursuing in this case a policy directed against the interests of the Far Eastern Republic and those of many of its citizens who for decades derived their maintenance from the Russian fishing industry.

The Government of the Far Eastern Republic has always been regarding the question of the Russian fisheries as one of national importance and is therefore forced to consider the above act of a Japanese Government official institution as hostile to the Republic and as a violation of its sovereign rights.

FOREIGN AFFAIRS OF THE FAR EASTERN REPUBLIC

8 April, 1922.

Chita, Siberia.

III | O 四月十日 在総督熊崎總領事ヨウザイ
内田外務大臣宛(電報)

ヤメノハノ西比利亜ニ於ケル行動ニ及スル米

第八九歩

往電第七八号ニ閑シ其後「ヤメノハ」ノ西比利亜ニ於ケル

行動ニ対スル非難ノ声明マリ「トメラカハ、レジニア」ヘ

如キモ国務省及労働省ニ於シテ「ヤメノハ」ノ入國ヲ許

可ヤル理由ヲ質問セリト甚くラルル傍聴ニ西比利亜米國遠

征軍ニ加ヘンル士佐 Morrow ノ如キ上院教育及労働委員

長「サム」ノ質問ニ対シ西比利亜ニ在リソ聯合軍幹部ハ

「ヤメノハ」及シ其船トハ田シテ虐殺者及シ盜賊ト為シ居

タル事及シ「ヤメノハ」ノ西比利亜ニ於テ金品ヲ掠奪横領

セルコト及シ其大資金ノ出所ヲ陳述ベルコト好マサルニ

新聞紙ノ報道ニ依ハク Baron KATO が田本ハ東部西比利

I avail myself of this opportunity, Monsieur le Ministre, to ask you to kindly bring to the notice of your Government, that the Government of the Far Eastern Republic, being the rightful owner of the Russian fisheries in the Far East can only recognize such leases on the above fisheries as may be issued or granted by authorised official organs of the Republic.

The Government of the Far Eastern Republic sincerely hopes that the Imperial Japanese Government is likewise desirous of establishing good neighbourly relations with the people of the Republic and will in accordance with the principles declared at the Washington Conference cancel the resolution of the Japanese Administrative Bureau.

I remain, Monsieur le Ministre,
yours very respectfully,

Signed: Y. Yanson,

THE MINISTER OF

利里ニ於ケル「ヤメノハ」ノ行動ヲ後援セリトハ
又元西比利亜ニ出仕セリトハ英國陸軍大尉
Earle ナルヤハ「ヤメノハ」ト日本ニハ関係ヲ明カリバ
ハ參照書類ヲ所持ベヌ称シ右情報ヲ提供セシムア「ヤメ
ノハ」ノ申込ベリト甚くハシ又当地一部猶太人モ彼ニ対シ反
感ハ示シ居シト
因ツハ十二月ハ固リ保釈金貸出者ヲ突然返金ヲ迫ハシ遂
ニ「ヤメノハ」ハ回田当地監獄ニ収監サンタリ
在米大使ハ郵送セラ

III | I 四月十七日 在浦潮永井政務部長代理ヨウジ
内田外務大臣宛(電報)

過激派ノムニハ等カセノア余議ニ参加セハム

ルノムニ付添黒龍政府ヲ回余議議長ニ抗議

ノ件

(四月十八日接収)

第六六号

往電第^(甲)〇号ニ閑シ

沿黑龍政府首班「メルクーロハ」
左ノ抗議ハ四月十六日発刊ノ政府機関紙「ルベギークハ
ベ」ニ發表セリ

一五 露国反過激派関係雑件 三二二

四〇八

列国ハ過激派ノ代表者タル「レニン」及「トロツキー」ニ
対シ「ゼノア」會議ノ参加ヲ承認セルガ是等ハ古今未曽有
ノ「テロル」ト罪惡トニ依リ露国民ニ權力ヲ振ヒ国土ヲ崩
壊シ露國ヲ滅亡ニ導キタルモノナリ沿黒龍政府ハ広大ナル

全露國領土内ニ於テ客年五月二十六日以降存在セル唯一ノ
露國國權ニシテ住民ノ意思ニ基キテ創設セラレシ歐米及亞
細亞ニ於テ文明諸國ノ享有スル自由、權利及正義ニ則リテ
施政ヲ行ヒ来レルガ我政府ハ露國民ノ名ヲ以テセル世界ノ
犯罪者トノ有ラユル談判及協商ニ対シ抗議ス又自由ニ自己
ノ意思ヲ表示シ得ベキ一部露國民及過激派ノ「テロル」等
ノ為現今圧迫ヲ被レル全露國民ノ名ヲ以テ沿黒龍政府ハ露
國民ガ「ゼノア」會議ニ参列ノ諸國代表ト犯罪者タル過激
派トノ如何ナル協商モ承認セズ又将来之ヲ承認セザルベキ
コトヲ声明ス

註 永井政務部長代理ノ第六〇号電報ヲ省略セリ該電ヘ勞農政
府代表ノゼノア會議參加ニ関シ浦潮ノ沿黒龍國民議會ヨリ
同會議ニ對スル抗議ノ通告ヲ決議セルコトヲ報告セルモノ
ナリ

三一二 四月十八日 在浦潮永井政務部長代理ヨリ
内田外務大臣宛（電報）
浦潮政權主班メルクーロフハ大連會議ト日本軍撤退
問題ニ関連シ一般住民ニ対シ四月十六日機関紙「ルスキイ
クライ」ニ左ノ通宣言ヲ發セリ

第六七号
沿黒龍政府主班「メルクーロフ」ハ大連會議ト日本軍撤退
問題ニ関連シ一般住民ニ対シ四月十六日機関紙「ルスキイ
クライ」ニ左ノ通宣言ヲ發セリ

最近浦潮ニ於テハ各種ノ流言傳ヘラレアリテ日本代表者ト
齊多ノ過激派代表者間ニ大連會議成立、日本軍撤退、齊多
共產主義者ノ沿黒龍政府領土併合並ニ近ク政權ノ移動説等
挙ゲテ數フベカラズ殊ニ當地ノ「ゴロス、ロージヌイ」及
「ウォーストーチヌイ、クリエール」両紙ノ如キ極東共和国
ノ公報機關ハ空想的政變ノ為極力準備シ居リ「ゴロス、ロ
ージヌイ」ハ住民ニ対シ政府ニ納稅スベカラズト宣伝シツ
ツアリ齊多ノ買収セル哈爾賓發刊新聞ノ論調ハ一層傲慢不
遜ナリ哈爾賓新聞ハ空想的文書ト虛偽ノ事項ヲ作製シ沿黒
龍政府ハ沿黒龍州領土、鐵道鉱山其ノ他ノ權利ヲ外国人ニ

讓渡シ且政府員ノ外國亡命ノ準備云々ノ虚伝ヲ叫ビツツア
ルノ事実ニ顧ミ露國々民政府ハ爰ニ一般公衆ニ対シ宣言ス
國賊ノ狡猾手段ニ依リテ伝ヘラル露國々賊ト領土ノ讓渡
並ニ政府員ノ亡命其ノ他ニ関スル流言ハ何レモ厚顏無恥ニ
シテ憎惡スベキ彼等ノ作成セル虛構ノ宣伝ナリ政府ハ何處
ニモ出発ノ準備ヲ為サズ又何處ヘモ赴カザルベシ日本代表
者ト世界的犯罪人ノ代表者間ニ行ハレタル大連會議ノ成立
スルモセザルモ露國民ノ為戰ハントスル我政府ノ決心ハ聊

三一三 六月一日 在浦潮松村總領事ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

モ其ノ影響ヲ受クルモノニ非ズ仮令日本軍撤退スルトモ政
府ノ決心ニ影響スルコトナシ日本ニ取リテ不面目ナル大連
會議ノ成立ト日本軍ノ撤退トハ此ノ際内乱ヲ再發シ更ニ露
國民ノ流血ヲ増スノミ

沿黒龍政府ハ忠誠ナル軍隊ト公明ナル露國住民ノ愛國心ニ
依頼シ如何ナル場合ト雖モ共產主義ノ徒党及極東共和国代
表者露國篡奪者ヲ我領土内ニ入ルコトヲ承認セズ政府ハ正
義ノ力ニ依リ露國民ノ事業極東露國住民ノ防禦ニ関シ堅ク
其成功ヲ信ズ極東共和国權力ノ侵入ヲ排セントセバ日本軍
ノ武力的干与ニ依リテノミ实行シ得ベケンモ我政府ハ日本
政府カ斯ノ如キ行動ヲ取ラザルコトヲ信ズ近來發生シツツ

一五 露国反過激派関係雑件 三一四

四一〇

ノトナシ解散命令ニ服セズ却テ政権ハ臨時国民議会ニ移リタル旨ノ印刷物ヲ発シタルモ自己ノ力薄弱ノ為却ツテ政府側ヨリ捕縛ノ難ニ遭フベキヲ恐レ最近暗ニ「メルクロフ」ガ「カッペリ」軍ノ総司令官ノ職ヲ狙ヒ居ルニ対シ不満ノ情ニアリタル現「カ」軍総司令「ウイルジュウイツキー」及副司令「モルチャノフ」両將軍ノ救ヲ求メタルヨリ「カ」

兵中ノ鉄道民警約三百名ハ六月一日午前二時議会ニアリタル反「メ」政府議員ノ保護ニ当リ一方「メ」政府ハ市民警ニ命ジテ是ガ追払ヲ命ジ飽ク反議会ノ解散ヲ遂行セントシタルモ市民警ハ流血ノ慘ヲ恐レテ敢ヘテ手出シセズ中立ノ態度ヲ持シ鉄道民警モ大部分ハ現位置ニ帰還シ百名内外ヲ

以テ反政府議員ヲ護衛シツツは又積極的ノ行動ニ出デズ而シテ海軍兵ハ全部政府側ニ加担シテ「メ」一派ヲ護衛中ニテ双方トモ万一千発砲等ニ依リ市ノ秩序ヲ紊スニ於テハ日本軍ヨリ直ニ誰ノ別ナク武器ヲ取上ゲラルベキヲ知リ目下共ニ自重睨合ノ姿ナル處斯クシテ両日中ニハ双方ニ対スル調停者出デ流血ノ慘ヲ見ズシテ時局ハ無事解決スペキモノト觀察セラルルモ「メ」ガ此儘失脚セバ當地方ニハ「メ」ニ代リ中心トナルベキ人物ナキニ鑑ミ当分政権ニ対スル紛

擾ハ絶エザルベシト思考セラル尚日本軍ハ飽ク迄中立ノ態度ニ出テ夫レトナク現状監視中

市中平穏市民ノ多クハ今回ノ政権争奪ニ対シ何等興味ヲ感じ居ラズ雲烟過眼視シ寧ロ内輪喧嘩ノ結果共産党人ノ乗ズル所トナル可キヲ恐レ居ルモノノ如シ不取敢

註 「エス、エル」ハソーシアル、レヴァオリューショニスト」

ノ略

三一四 六月一日 在浦潮永井政務部長代理ヨリ 内田外務大臣宛(電報)

メルクロフ政府ト国民議会派トノ軋轢ノ状

況報告ノ件

別電一 同日永井政務部長代理発内田外務大臣宛電報第八五号

国民議会ガ「メルクロフ」政府員ヲ罷免シ自ラ政権ヲ掌握

自ラ政権ヲ掌握スル旨ノ決議

二 同日永井政務部長代理発内田外務大臣宛電報第八六号

国民議會議長、副議長等ノ一般国民ニ対スル

布告

第八四号

(六月一日接受)

五月二十六日沿黒龍政府成立記念祝賀祭夜会ノ席上「メルクロフ」首班始メ政府員ノ面前ニ於テ国民議会非社会党

大會議員「シフコトウロフ」ハ同党運動ノ理想ヲ述べ非社
会党ノ沿黒龍政府ニ対スル態度ニ言及シ政府ヲ攻撃セルタ

メ民警隊長ハ政府ノ命令ニ依リ解散ヲ命ジ此処ニ政府ト国民議会派トノ軋轢ヲ暴露シ形勢日々ニ陥惡ニシテ何時政変ヲ見ルヤモ知レザル状態ニアリング总理「エフレモフ」ハ

政府ノ新タニ議会ニ提出セル住宅税問題ニ関聯シ国民議會解散ノ口実ヲ得ントシ居リタル故三十一日ニ至リ政府ハ国民議会ニ対シ解散ヲ命ズルコトヲ決議スルニ至リタルヲ以テ從来政府ノ態度ニ飽キ足ラザリシ非社会党及国民議員ノ多数ハ政府ノ解散決議ヲ退ケテ逆ニ「メルクロフ」政府ノ主權ヲ廢シテ議会自ラ憲法議会召集迄最高主權ヲ掌握スルコトニ決シ「カ」軍又議会ノ行動ヲ援助シテ同夜国民議会ハ緊急議会ヲ召集シ六月一日附沿黒龍国民議会ノ名ヲ以テ別電第八五号ノ通ノ決議ヲ発表セリ而シテ五月三十一日夜国民議会緊急會議ノ結果六月一日朝国民議會議長「アンドルシケイウイッチ」同副議長「ボルツイレフ」「アボイ

モフ」等ノ名ニ於テ一般国民ニ対シ別電第八六号ノ通布告

ルコトニ決シ「カ」軍又議会ノ行動ヲ援助シテ同夜国民議

会ハ緊急議会ヲ召集シ六月一日附沿黒龍国民議会ノ名ヲ以

テ別電第八五号ノ通ノ決議ヲ発表セリ而シテ五月三十一日

夜国民議会緊急會議ノ結果六月一日朝国民議會議長「アン

ドルシケイウイッチ」同副議長「ボルツイレフ」「アボイ

モフ」等ノ名ニ於テ一般国民ニ対シ別電第八六号ノ通布告

ルコトニ決シ「カ」軍又議会ノ行動ヲ援助シテ同夜国民議

会ハ緊急議会ヲ召集シ六月一日附沿黒龍国民議会ノ名ヲ以

一五 露国反過激派関係雑件 三一五

ロフ」ノ逮捕ハ軍司令官之ヲ執行ス

四、総理ノ職務ハ當分ノ間司法部長「スツルコフスキ」

之ヲ執行ス

五、政府ノ残職員ハ其儘居残リ職務ヲ執行スベシ

六、現商工部次長「ペトロフ」ハ商工部長ノ職務ヲ執行ス

(別電)

六月一日在浦潮永井政務部長代理堀内田外務大臣宛電報第八

六号

国民議会議長、副議長等ノ名ヲ以テセル一般国民ニ対スル布告

第八六号別電

(六月一日接受)

政府員「マルクーロフ」兄弟ハ自己ノ主権ヲ濫用シテ国民ノ選挙ニ係ル議員ニ對シ其權限ヲ侵害セリ五月三十一日ニ至リテハ国民議会ノ解散ヲ敢テシ以テ政府ノ主権ヲ引渡スベキ憲法會議ノ召集ヲ拒絶セリ吾人ハ祖國々民及ビ勇敢ナル軍隊ノ利害休戚ニ係ルコト大ナルヲ以テ又其責任ノ重大ナルニ鑑ミ彼等無謀ノ計画ニ参与スルコト能ハズ依ッテ吾人国民議会ハ茲ニ政府員「マルクーロフ」兄弟及ビ「エフレモフ」「アデルソン」「マカリウイッチ」ノ五名ヲ以テ

四一二

国民ノ信頼ナキモノト認メテ之ヲ罷免シ(不明)憲法議会ノ召集セラル迄吾人沿黒龍国民議会ニ於テ最高主権ヲ掌握スベクスクノ如クシテ国民議会ヲ中心トシ国民ト軍隊トノ関係ヲ密接ニシ法律ヲ尊重シ平和ト秩序ノ維持ノ為全力ヲ挙ゲテ努力スル所アルベシ

三一五 六月一日 在浦潮派遣軍參謀長ヨリ

陸軍次官宛(電報)

マルクーロフ政府及国民議会間ノ紛争ニ付報

告ノ件

(六月二日外務省写接受)

一、「メ」政府ノ内訌ニ就キテハ從来屢報告セシ処ナルカ「メ」ハ現在ノ国民議会ノ解散シ更ニ召集ヲナス可ク三十一日夕該命令ヲ下セリ之ニ對シ国民議會長「アンドルシュケウイッチ」「ボルドレーニフ」中將等及反政府側一派ハ急遽「メ」一派ノ專横ヲ理由トシ新政權樹立ヲ宣言シ旧政府ノ驅逐、統治権ハ一時議会ニ於テ行使スヘキ事「メ」兄弟ノ捕縛監禁旧内閣議長「エブレモフ」ノ免職等ヲ命令發表セリ

二、陸軍部長「ウエルジビツキー」第三軍團長「モルチャ

ノフ」等軍部側ハ「メ」ノ自己ニ対スル圧迫及旧「セ」軍系人物重用ヲ快トセシシテ前記反「メ」一派ニ加担シタルモ未タ示威行動ヲ開始セス目下「メ」兄弟及政府員ハ「メ」ノ居宅ニ集合シ新政權ト對峙シアリ

三、政變ノ勃発ハ「メ」一派ノ專横特ニ議會解散ヲ直接動機トシ急遽成立セシモノナルモ「アンドルシュケウイッチ」等何レモ親米人物ヲ主腦トスルハ注意ヲ要スル点ニシテ尚知多側連繫ノ有無及東支線方面トノ關係ニ就テハ探査中

三一七 六月十日 在浦潮松村總領事ヨリ

内田外務大臣宛(電報)

セラレシ件

第一四三号

(六月十日接受)

四、軍ハ從來ノ如ク嚴正中立ノ態度ヲ持シ万ー武力争鬪ノ実現ヲ見ハ武装解除ヲ断行ス

東京、各特務(閔東、北京、朝鮮、奉天、薩哈哩)

三一六 六月六日 内田外務大臣ヨリ

在浦潮永井政務部長代理宛(電報)

浦潮政變ニ対スル日本政府ノ方針ニ付訓電ノ

件

第一九号

(極秘)

貴地今回ノ政變ニ関シ我方トシテハ依然不偏不党ノ態度ヲ

一五 露国反過激派関係雑件 三一六 三一七

一五 露国反過激派関係雑件 三一八 三一九

ヲ收拾スベキカハ不明ナルモ同人ハ曾テ「オムスク」ニ於テ「コルチャク」軍ノ總參謀長（前電總軍司令官トアルハ誤）タリシコトアリ後「コ」ト意見衝突ノ為退キ「コ」ノ歿後育多ニ於テ「セミヨノフ」ニ属シ其軍事會議々長ニ挙ゲラレ「セ」ノ没落後哈爾賓ニ閑居育英事業ニ没頭中ナリシモノニシテ「オムスク」在勤中ハ外人間ニ極メテ好評アリ頭腦明晰露國軍人中稀ニ見ル手腕ヲ有シ先年英國通信員「ウィルトン」と共に「オレンブルグ」ニ「ニコライ」皇帝ノ遺骨ヲ探索シ今尚是ヲ珍重秘藏スル程主義トシテハ帝政派ノ右党ナリト云フ

三一八 六月十一日

在浦潮松村總領事ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

ジトリクス中将浦潮政局ノ円満解決ノ予想、

日露親善関係ノ増進ニ付上田書記官ニ談話）

件

第一四四号

（六月十一日接受）

往電第一四三号当地政權争奪事件ニ関シテハ今尚紛糾中ナル處偶々当地滯在中ノ上田書記官ハ六月十一日朝旅行者トシテ「ジトリクス」將軍ヲ訪問シタルニ「ジ」ハ上田書記

官ニ対シ自分ハ浦潮ヨリノ招請ニ対シ条件附ニテ来浦シタルモノニシテ第一ニ内輪喧嘩ノタメ流血ノ慘劇ヲ演ズルヲ避ケシム可ク折角苦心中ニテ「メ」側反「メ」側双方ニ対シテハ互讓ノ上妥協セシムベク嚴重ノ警告ヲ發シ置キタルニ付六月十一日午前十時迄ニハ双方ヨリ満足ナル回答アル筈ナレバ之ニテ時局ハ円満ニ解決スルモノト察セラル尤モ自分ハ今後トモ日露ノ親善関係ニ付テハ殊ニ留意シ度キ方針ニテ從ツテ從來ヨリモ一層良好ノ関係ヲ齎スベキヲ疑ハズ此点ハ吳々モ了解アリ度キ旨ヲ述べタル趣ナリ

三一九 六月十二日

在浦潮永井政務部長代理ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

ジトリクス將軍メルクーロフ側ト談判ノ結果

同人ノ政權復帰ヲ決定ノ件

第一〇〇号

（六月十三日接受）

往電第九九号ニ關シ
六月十一日新政權外交部長代理「コルバーキン」ヨリ國民議會議長「アンドルシモーウィッヂ」ト共ニ本官ニ會見ヲ申込來リタル処同日夕刻ニ至リ他方面ヨリ「ジトリクス」將軍ニ対スル「メルクーロフ」側トノ間ニ妥協成立セル趣

第一〇一號

（六月十三日接受）

云ト語リタル趣ナリ

註 六月九日永井政務部長代理發第九九号ヲ省略セリ右ハジト

リクス將軍六月八日浦潮署國民議會、官憲、軍隊等各方面ノ歡迎ヲ受ケタルコトヲ報告セルモノナリ

三一〇 六月十三日 在浦潮永井政務部長代理ヨリ
ジトリクスガ沿黒龍政府陸海軍總司令官ニ任

ゼラレタル上同政府領土内全露國軍隊ニ發シ

タル布告報告ノ件

第一〇一號

（六月十三日接受）

往電第一〇〇号ニ關シ「ジトリクス」將軍ハ六月十一日臨時沿黒龍政府陸海軍總司令官ニ任命セラレ同日大要左ノ通同政府領土内ノ全露國軍隊ニ対シ布告セリ

予ハ沿黒龍國民議會ヨリ政府首班ニ推舉セラレタリトノ電報ヲ六月五日哈爾賓ニ於テ接受シタルカ予ハ浦潮政權ノ組織ヲ知ラス且適當ナル政綱ヲ定ムル能ハサリシヲ以テ浦潮

到着ノ上自己ノ態度ヲ決定スル方針ヲ以テ六月七日哈爾賓ヲ發シ此事ニ關シテハ途中出迎ニ來レル國民議會ノ委員ニアルヲ以テ今後ノ政局必ズシモ樂觀ヲ許ザザルモノアリ云
益当地ノ政情ヲ紛糾セシメ虎視眈々機会ノ到来ヲ窺ヒツツ
アルヲ以テ今後ノ政局必ズシモ樂觀ヲ許ザザルモノアリ云

一五 露国反過激派関係雑件 三一〇

四一五

四一四

一五 露国反過激派関係雑件 三二一

八日ニ亘リ当地ニ発生セル事件ヲ審議研究スルニ及ヒ今回ノ政治的紛擾ヲ解決スルニハ合法的方法ニ依ルノ外ナキコトヲ決心スルニ至レリ

六月一日当浦潮ニ発生セル事件ハ一九一七年二月二十七日「ペトログラード」ニ発生セルモノト其軌ヲニシ當時国民代表機関ハ全露国民ノ民意ヲ無視シ現存シタル合法的政權ニ反抗シテ革命的手段ヲ執リタリ二月二十七日国会ノ執リタル態度其因ヲ為シ全露国民ハ現今ノ如キ慘状ヲ経験スルコトトナリタリ今回六月一日以降沿海州ニ於テ世人ノ実験セル情勢ハ正シク同一ノ結果ヲ齎ラスニ至ルヘク非国民的労農政權ニ対スル神聖ナル国民的事業ハ終ニ失敗ニ終ルナラム依ッテ予ハ反過激派ノ一致団結ヲ必要トスル時ニ当リ決シテ革命的手段ニ依リ自ラ起タムトスルモノニアラズ沿黒龍政府ハ唯一ノ反過激派ノ結合トシテ同一政府員ニ依リ其政權ヲ把握スルコト茲ニ已ニ一年余ニ及ヘリ故ニ予ハ

一、革命的手段ニ依ル国民ノ推薦ヲ拒絶ス
二、沿黒龍国民議会ハ臨時沿黒龍政府ノ命令ニ依リ解散セラレタルモノト認ム

三、今回ノ事變終結後十五日以内ニ露国ノ歴史的理想的國

第一四五号

(六月十三日接受)

六月一日以来紛糾ヲ重ネツツアリン当地ノ政情ハ反「メ」側ノ招請ニ依ル「ジトリクス」中将ノ来浦ニ依リ兎モ角モ解决ノ運ビニ至ルベシトハ一般ノ觀測ナリシガ「ジ」將軍ハ六月八日哈爾賓ヨリ着浦以来慎重ニ「メ」側及反「メ」側双方ノ主張態度ヲ精査シタル後六月十一日夜国民議會議員中ノ一部团体タル反「メ」側ノ行動ハ不合法的ナルコト五月三十一日「メ」政權ノ發シタル国民議会解散命令ハ合法的行為ト認ムルコト時局ノ安定ヲ俟チ二週日後ヲ期シ国民大会ヲ開キ首班及閣員ノ選挙ヲ行フベキコト其迄ハ

「メ」政權ニ於テ從前通り政務ヲ見ルベキコト自分ニ対スル首班推薦ハ革命的措置ト認メ之ヲ辞退スルコト等ヲ宣言シ同時ニ各官庁ヲ占領中ナリシ双方ノ所属部隊兵ニ対シテハ一律原位置ニ帰還スベキヲ命シ海陸兵ハ何レモ之ニ服従シタルヲ以テ各官庁ノ執務回復ト共ニ「メ」政權ニ於テ政

務ヲ見ルコトトナリ同政權ハ改メテ「ジトリクス」ヲ陸海軍部長ニ「スタルク」中将ヲ西比利亞艦隊司令長官ニ夫々任命シ政局ハ此処ニ一段落ヲ告ゲタリ

四一六

民代表機関タル「ゼムストヴォ」會議ヲ召集シ之ニ依リテ沿海州最高主權ノ樹立ト組織トヲ決定ス

四、「ゼムストヴォ」會議ノ決議ヲ見ル迄ハ現ニ露国々民の結合トシテ浦潮ニ一年以上存立スル臨時沿黒龍政府ニ服従ス

五、沿海州ニ於ケル露国陸軍力義勇奉公ノ精神ニ富メルヲ確信シ予ハ臨時軍隊ノ總指揮權ヲ執ルト共ニ左ノ命令ヲ發ス

(1) 六月一日乃至同十日迄政變ノ期間ニ配置セラレタル市中並各官衛及建物等ノ警備ヲ即時撤廃スルコト
(2) 軍隊ハ兵營ニ帰還シ平時ノ狀態ニ復帰スルコト
(3) 全軍隊ハ正義ヲ守ルヘシ予ハ自ラ進テ之カ範ヲ示シ部下ノ之ニ倣ハムコトヲ要求ス

(4) 軍隊ハ予ニ服従シ予ハ直接臨時沿黒龍政府首班ニ服従ス

三二一 六月十三日

在浦潮松村總領事ヨリ

内田外務大臣宛(電報)

ジトリクス中将ノ浦潮政局解決ノ為ノ措置振

報告ノ件

三二二 六月三十日

在浦潮松村總領事ヨリ

内田外務大臣宛(電報)

東京ニ於ケルメルクーロフ派後援運動ニ付問合ノ件

第一六二号

(七月一日接受)

在東京在野政治家新聞記者其他結束シ「メルクーロフ」及其一味ノ為後援運動ヲ開始スル旨本月二十八日附電報ヲ以テ二六新聞社長秋田清ヨリ「メ」其他ノ露人及浦潮朝日ニ通報アリタル趣ナルカ果シテ東京ニ於テ右ノ如キ運動行ハレ居ルヤ御電示アリタ

三二三 七月六日

内田外務大臣ヨリ
在浦潮松村總領事宛(電報)

東京ニ於ケルメルクーロフ後援問題ニ關シ回報ノ件

第一三三号

貴電第一六二号ニ關シ其ノ筋ニ就キ取調ヘタル處秋田ハ其ノ友人カ客年七月「メ」政府ヨリ得タル林業利權ヲ擁護シ兼ネテ浦潮在留邦人ノ不安狀態ニ同情スル等ノ理由ニテ客月末「メ」等ニ宛テ此ノ際出來得ル限り其ノ一味後援ニ尽

一五 露国反過激派関係雑件 三二四 三二五

四一八

力スヘキ旨電報シタルカ浦潮朝日ヨリ右尽力方依頼ノ返電アリタリト謂フ尤モ秋田ハ右ハ不取敢力附ケノ為ニセルモノニシテ目下別ニ具体的成案ヲ有スル次第ニハ非ス且「メ」

トハ未タ面識無キニ付来月頃自ラ浦潮ニ赴キ「メ」トモ面談シ実況視察ノ上成案ヲ具シテ関係当局トモ協議ヲ遂クル積リナリト云ヒ居レル由

トハ未タ面識無キニ付来月頃自ラ浦潮ニ赴キ「メ」トモ面

談シ実況視察ノ上成案ヲ具シテ関係当局トモ協議ヲ遂クル積リナリト云ヒ居レル由

三二四 七月二十一日 内田外務大臣ヨリ 在天津吉田総領事宛（電報）

米国ヨリ帰来ノセメノフ長崎ヨリ天津ニ向ヒ

タルニ付其動靜注意方訓令ノ件

第六八号

「セメノフ」先般米国ヨリ帰来本邦又ハ青島ニ滯留方申出タルモ曩ニ同人沿海州退去ノ際爾後帝國領土又ハ我方勢力地域ニ入ラサルヲ約セシメタル行懸モアルノミナラス我方撤兵前時局頗ル「デリケート」ナル此ノ際之ヲ許可スルハ面白カラサルヲ以テ之ヲ拒絶スルト共ニ更ニ天津ニ赴ク意図ヲ漏シタルニ付シテモ我居留地内ニ滯留セサル様注意シ置キタルカ同人ハ其後一時長崎ニ於テ病氣療養ノ上本月十七日同地出帆ノ相模丸ニテ大連經由貴地ニ向ヘリ同人動靜

御注意ノ上我租界ニ入りタル場合ニハ之ニ対スル措置振ニ付請訓アリタシ

三二五 七月二十二日 在浦潮永井政務部長代理ヨリ 内田外務大臣宛（電報）

浦潮政府外交部長ノ米露関係ニ閲スル意見新

聞紙掲載ニ付大要報告ノ件

第一二四号 （七月二十三日接受）

当地沿黒竜政府外交部長「コレスニコフ」ハ七月十七日鳳山丸ニテ出張先米国ヨリ帰浦シタルガ七月二十二日發行当地政府機關新聞「ルースキ、クラーイ」ハ同氏トノ會見談トシテ大要左ノ通米露關係ニ閲スル同氏ノ意見ヲ掲載セリ

「ゼノア」會議ハ失敗ニ終リタルガ之ニ次イデ招集セラレタル海牙會議モ亦満足ナル結果ヲ得ザルベシ不成功ノ主ナル原因ハ米国ガ露國問題ニ閲シ徹底セル一定不變ノ態度ヲ執リタルガ為ナリ

労農政府ハ私有権契約並ニ義務ノ履行及個人権ノ不可侵等ヲ認ムルコトヲ拒絶セルガ如斯政權ニ付シテハ如何ニ努力スルモ何等ノ協商ヲ遂グルコト能ハズト思考ス米国政府モ

労農政府ニ付シテハ余ト同一ノ考ヲ有シ居リ現ニ國務卿「ヒューズ」氏モ公然之ヲ声明セル所アリタルガ商工務卿「フーバー」氏モ同様ノ意見ヲ抱キ居リ同氏ハ露國問題ニ閔シ華府商業會議所ニ於テ露國問題ハ慈善的施設ノ方法ノミニヨリ之ヲ解決スルコト能ハズ現下米国民ハ饑餓ニ瀕セル一千万ノ露國難民ヲ救濟シツアリト雖モ單ニ慈善的援助ノミヲ以テハ到底完全ニ露國問題ヲ措置スルコト能ハザル旨ヲ述ベタリ尚「フーバー」卿ハ文明諸國ハ過激主義者ト共同スル能ハズ若シ人類ガ過激派ノ主義及手段ヲ承認スルニ至ランカ全世界ハ忽チ災禍ト自滅ニ帰スベシト語レリ「フーバー」卿ガ工業界及財界ニ於ケル偉大ナル權威者トシテ名声赫々タルニ鑑ミ如斯大為政家ガ大露國ノ事情ヲ知悉シ同國「キンツルム」鉱山区ニ鉱山技師ヲ派遣シ調査セシメタルノ事實ハ米國實業界ニ付シ甚大ナル印象ヲ与ヘタリ「ゼノア」會議ノ失敗ト海牙崩潰ノ影響ニ依リ米國ノ財政家及工業家等ハ過激派トハ到底共同的事業ヲ開始スルコト不可能ナルコトヲ深ク覺悟スルニ至リ而シテ過激派ハ外国ヨリ借款ヲ得ザレバ今後永ク政權ヲ持続スルコト能ハザル可ク露國ニ於ケル将来ノ事業ハ過激派ト關係ナキ分子トノ

ミ行ハルベキモノナルコト明ラカナリ米國ニ於テハ西比利亞就中過激派ヨリ独立セル露國領土ノ一部タル東沿海州地方ニ付シテ多大ノ興味ヲ有シ居リ現ニ米國銀行「シンジケート」代表者ハ極東事情調査ノ為七月二十二日東京ニ來着ノ筈ニシテ同代表者ノ一行ハ先づ東京ノ調査ヲ終ヘ後当浦潮ニ渡來スル予定ナリ米國銀行團今回ノ極東旅行ハ米國及歐羅巴ニ於ケル累次國際會議ノ結果ヲ見テ行ハレタルモノナリ露國問題ニ閲スル一般的利害ト閨聯シ米國ニ於テハ浦潮市自治体ニ付シ米貨貳百万乃至參百万弗ノ借款ニ応ゼントノ申込モアリ本件ニ閲シテハ既ニ當地市長ト協商中ニ属ス又右借款問題ノ外米國諸商社ハ浦潮市ガ如何ナル条件ノ下ニ市ノ電車発電所及電話事業ニ閲スル利權ヲ讓与スルヤニ就キ質問ヲ為セリ沿海州ニ於ケル是等事業ニ閲シテモ過激派ハ借款ヲ為ス能ハザルヲ以テ實際上ノ方面ヨリ見テモノ亦徵毒ノ為慢性痲痺病ニ罹リ居リ過激派ハ永久ニ其首領ヲ失ヒタルノ状態ニ在リ其運命ヤ知ルベキノミ又「コレスニコフ」ハ米國商社ヨリ沿黒竜政府ニ付シ農具製造品其他製品ノ信用販売ヲ開始シタキ申込ヲ受ケ右ノ一部ハ引

一五 露国反過激派関係雑件 三二六 三二七

渡ヲ終ヘタルモノモアリ沿黒竜政府ハ売買済ノ貨物ニ対シ
テ米貨五万五千弗ノ手形ヲ發行シタリ

三二六 七月二十八日 在浦潮永井政務部長代理ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

第三回沿黒龍地方會議ニ於ケルメルクーロフ

演説中日本ニ関係アル部分報告ノ件

第一三一號 （七月二十九日接受）

往電第一三〇號ニ関シ

七月二十七日夕刻第三回地方會議開催セラレ「メルクーロフ」首班ハ大正十年五月二十六日以降今日マテノ施政ニ関シ演説シタルカ其際日本トノ関係ニ付大要左ノ通リ述ヘタリ日露漁業協商ハ當政府ト日本總領事トノ間ニ折角成立セントシ漁区料一八〇万ループルカ將ニ我カ國庫ニ入ラントスルニ際シ日本政府ノ自國漁業家ニ対スル自由出漁承認トナリ右漁区料ヲ回収スルコト能ハサルニ至リ我カ政府ノ財政ハ一層困難トナレリ列國トノ関係ハ極メテ親善ナルモ露國ニ対スル日本ノ政策ハ吾人露国民ノ最モ不快トスル所ニシテ日本ハ「チタ」過激派政權ヲ援助シ近ク再ヒ通商協約ヲ締結セントシツツアリ而シテ日本軍ノ撤兵ハ既ニ確定

ノ件

第一三九號

（八月九日接受）

往電第一三六號ニ關シ

八月八日夜公開地方會議ニ於テ旧政府首班「メルクーロフ」ト新統領「ジトリクス」將軍トノ間ニ政權ノ授受ヲ了シ中央寺院ニ於テ莊嚴ナル儀式ヲ挙行シタリ同日「ジトリクス」將軍ハ近ク地方會議（「ゼムスキーボール」）ヲ開催シ立法諮詢機關トシテ四十四名（但シ内二十一名ハ地方議員ヨリ互選八名ハ官公吏ニシテ同議員タルモノ又議員外ヨリ投票指名ス）ヨリ成ル地方會議（「ゼムスカヤドウマ」）ナルモノヲ招集スル旨公表シタリ

註 八月七日永井政務部長代理發第一三六號ヲ省略セリ右ハ八月六日夜公開ノ地方會議ニ於テジトリクス將軍ガ統領（チクティートール）ニ當選セル旨ヲ報告セルモノナリ

三二八 八月十日 在浦潮永井政務部長代理ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

ジトリクス統領行政機関ノ新組織ヲ命令シ並

旧首班メルクーロフヲ米國駐在代表者ニ任命

等ノ件

四二〇

シ遠カラス実行セラルヘキモ撤兵ニヨリテ偶々吾人ノ團結力ハ増シ独立ノ真価責任ヲ發揮セラルヘキニ反シ極東共和國ハ之ニ依リテ却テ從来ノ如ク外國干涉ト称シテ一部ノ人

心ヲ収攬スルノ奸手段ヲ失フニ至ルヘク結局撤兵ノ影響ハ彼ニ対シテ却テ非ナルモノアリ極東共和國ハ斯クシテ遂ニ崩壊ノ非運ヲ見ルニ至ルヘシ畢竟干渉ハ吾人ヲ救済スルモノニ非サルカ故ニ吾人ハ一致團結独力以テ困難ニ当ラサルヘカラス云々

次回ハ七月二十八日夕秘密會議開催ノ筈

註 七月二十七日永井政務部長代理發第一三〇號ヲ省略セリ右ハ七月二十五日第二回地方會議開催サレ議長副議長等ノ役員ヲ選舉セル旨ヲ報告セルモノナリ

地方會議トハ前掲永井政務部長代理六月十三日發第一〇一号ノジトリクスノ布告中ノ三ノゼムストヴォ會議ニ當ル沿黒龍地方會議ナリ

三二七 八月九日 在浦潮永井政務部長代理ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

八月八日夜公開ノ地方會議ニ於テメルクーロフト新統領ジトリクス將軍トノ間ニ政權授受

第一四四號

（八月十日接受）

往電第一三六號ニ關シ八月九日新統領「ジトリクス」將軍ハ命令ヲ發シテ八月十日限リ地方會議（「ゼムスキーボール」）ヲ閉会シテ新ニ地方會議（「ゼムスカヤ、ドウマ」）ヲ招集スルコトトシ行政機關ノ縮少刷新ヲ計リ財政經濟商工部外交部交通部ノ三部ヲ以テ外務會議ヲ組織セシメ過激派政權ニ対抗シ地方行政事務ノ執行ニ任スルタメ内務會議ヲ組織シ内務部長ヲ議長トシテ四名ノノ補佐官ヲ置カシメ司法部会計検査部軍部ノ事務ハ統領之ヲ直轄スルコトトシタリ尚旧首班「メルクーロフ」ハ米國駐在当地政權ノ代表者ニ「エヌ、メルクーロフ」ハ外交部長ニ「カチエンコ」ハ交通部長ニ其他夫々任命セラレタリ尚又共產黨社會黨ハ其家族ト共ニ勞農露西亞又ハ極東共和國ニ追放スルコトトシ結束シテ所謂赤派ニ当ラムトスルノ氣勢ヲ示シ居レリ

第三四四號 在奉天赤塚總領事ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

滿洲里ニ於テ中國官憲力齊多側ノ抗議ニ依リ

反過激派ヲ取締ノ件

（八月十一日接受）

一五 露國反過激派關係雑件 三二八 三二九

四二一

一五 露國反過激派關係雑件 三三三

本軍ノ一士官ガ浦潮政府側ノ依頼ヲ受ケ上官ノ命令ト偽リ護衛兵ニ旨ヲ伝ヘ本年一月下旬該武器ヲ容レタル貨車ノ移動ヲ許シタルニ依リ浦潮側ハ空貨車ヲ以テ之ト置換ヘ武器ノ内必要ノモノヲ哈府ヘ輸送セルコト判明シ責任者ハ軍法會議ニ附セラル趣尚本件解決ハ先づ出先軍憲ニ於テ行フコトト成レリ貴官限リ御含ミ迄

三三三 九月十三日 在浦潮堀政務部長ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

在浦潮チエック軍武器ヲハバロフスクへ移動

二関シ日本陸軍側ノ態度ニ付報告ノ件

第一五九号(極秘)

(九月十四日接受)

軍ノ白軍援助有無ノ問題ハ本官ノ銳意探究ヲ怠ラサル所ナルカ着仕後短期間ノ探聞ニ拠レハ偶々軍以外ヨリ聞知スル所モ例ノ「チェック」貨車問題カ又ハ同問題カ巷間ニ流布スルニ当リ変形拡大セラレタリト認メラルモノノミニシテ他ニ傾聴スヘキ風説ニ接シタルコトナシ郡司副領事ハ任地ニ於テ軍ノ將校ト最モ善ク接觸シタリト認メラル専属ノ官ノ談ニ拠レハ今春白軍「ハバロフスク」進出ノ際ハ隨分如何ハシキ軍側ノ態度ニ遭遇シタルモ今次ノ撤退ニ際シテノ

三四四 九月十三日 在浦潮堀政務部長ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

日米欧ニ向ケ出発前メルクーロフガ永井領事

二漏シタル今回ノ出向ノ目的ニ付報告ノ件

第一六一号(註)
往電第一四四号及第一四五号ニ関シ

「マルクーロフ」前首班ハ九月十三日出帆ノ鳳山丸ニテ愈当地ヲ出発シタリ出発前彼ガ永井ニ漏シタル所ニ拠レバ彼ハ日本及米国孰レモ數週間滯在ノ上渡欧シ先づ巴里ニ居ヲ定メ労農政権凋落ノ時機ヲ見計ラヒ漸次居ヲ移シテ「ペトログラード」及莫斯科ヘマデモ侵入シ内外相呼応シテ各地白派ノ大同團結ヲ期セントスルモノノ如ク米国上陸後ハ當地政権使節ノ資格ヲ辞退スルモ裏面ニ於テハ依然當地政權ト聯絡ヲ保チ祖国復興ノ為最モ自由ニ活動セムトスルモノナルヤニ察セラル

松平ヘ電報シタリ

註 第一四五号電報ニ付テハ前掲八月二十三日永井政務部長代
理發內田外務大臣宛電報第一四九号末尾ノ註参照

三三五 九月十四日 在浦潮堀政務部長ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

四二四

行動ハ赤白両側ニ対シ概シテ敵正公平ナリシコトヲ明言シ得トノコトニテ以前ノコトハ不明ナルモ最近ハ中央部ノ意圖カ出先軍隊ニ相當程度ニ徹底シタルモノト認ムルヲ至当トス従ツテ對内問題トシテ外務省ヨリ陸軍側ニ対シ既ニ軍ニ於テ一部ノ責任ヲ感シ居ル「チェック」問題ヲ援用折衝セラルコト然ルヘキモ對外問題トシテハ長春會議ノ前途幾多ノ難関ヲ予想セラル此際後日齊多側ニ口実ヲ与フル如キ軍ノ態度ニ閑スル風説ハ本官出発前上原參謀總長ノ注意モアリタル如ク今後相當戒慎ヲ要スト考フ「チェック」問題ハ當司令部ニテハ當地政権側カ下級參謀及歩哨直屬ノ中隊長ヲ欺瞞騙取セルモノニシテ今ヤ當地政権モ之ヲ承認シタリト説明シ善後策トシテハ総額八十五万円ノ内一部ハ押収武器カ十月末頃當地政権ニ交附セラルコトトナラハ其ノ内ヨリ實物ヲ以テ補償シ残部ニ対シテハ「チェック」對當地政権ノ直接交渉ニ委シ多分「チェック」ノ未納鉄道輸送料金ト相殺セシムルカ或ハ軍ヨリ現金ニテ補給スル方針ナルカ如シ右御参考迄

松平ヘ電報セリ

一五 露国反過激派関係雑件 三三六 三三七

四二六

エ宣伝書類ヲ市内ニ密輸シツアリ変装ノ赤兵モ相当潜入シ機会ヲ窺ヘルモノノ如キモ当地方面赤化計画ハ軍撤退前ニ於テハ見込ナキモノト思考セラル

松平ヘ電報セリ

三三六 九月十八日 在浦潮堀政務部長ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

ジトリクス張宗昌ニ答札ノ為ポグラニチナヤ

ニ至リ張側ト懇談シ尚張作霖等ニ電報挨拶ノ

件

第一七〇号

露国公報部ヨリノ情報ニ依レバ「ジトリクス」ハ曩ニ来浦シタル張宗昌ニ対スル答札ノ為外交部長「メルクーロフ」（兄）及浦潮市長「アンドレスキー」將軍等ヲ從へ九月十六日「ボグラニチナヤ」駅ニ至リ同地露支官民ノ熱烈ナル歓迎ヲ受ケ張側ト交驩懇談ノ後張作霖及吉林黒竜両督軍ニ對シ列席者連名ニテ大要「余ハ本日「ボグラ」ニ張中将ヲ答訪セリ茲ニ東三省特別地方ニ於ケル閣下ニ敬意ヲ表ス吾人ノ友誼的会見ハ既ニ開始セラレタル両隣接者ノ連繫ガ各自ノ成功ヲ助クルモノナリトノ信念ヲ与フルモノナリ」ト

電報セリ尚「ジ」一行ハ十七日尼市ニ帰着セリ
松平奉天ヘ電報セリ

三三七 九月十九日 在浦潮堀政務部長ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

浦潮方面現下ノ政情及将来ノ見通ニ付報告ノ

件

第一七二号 （九月十九日接受）

当地方面ノ現状及露国側朝野有力家ノ時局観ニ関シ渡辺ガ取調べタル要領左ノ通

（一）現政府側外交部長代理「ブライコフスキイ」「サリニコフ」將軍（「ジ」將軍「オムスク」時代ノ參謀長タリ目下勘察加州「アナデイル」遠征隊長トシテ運動中ノ者）及政府公報部長「ミハイロフ」大佐等ハ「ジ」一派ノ施政行動ヲ是トシ白軍ノ結束鞏固ト對赤軍ノ優勢乃至地方住民ノ悦服等ヲ吹聴シツモ日本軍撤兵、長春會議及押収品ノ交付等ヲ訴ヘテ日本ノ外務省ヲ攻撃シ盛ニ虚勢的宣伝ニ依ル民心ノ収攬ニ腐心セルモ内心財政極度ノ窮迫及白軍ノ戰意弱キニ鑑ミ自己終局ノ勝算覚束無キヲ自覺セルモノノ如ク現ニ政府側要路者中ニモ追々逃仕度ヲ為スモノアルガ如シ

明カナリスル悲境ニ在リ乍ラ「ジ」ガ主權者且外相ノ地位ニ於テ今回ノ如キ反日的演説及布告ヲ敢テシタルハ自己ノ寿命ヲ一層早ク縮メタル盲拳ト謂フベシ

（二）左傾社会党穏和派及知識階級ニ属スル當州「ゼムストヴォ」自治庁法律顧問ニシテ「アントーノフ」時代ニ法相たりシ「ロナエフ」及「レナ」大学ノ教授「ニコノフ」博士（「トムスク」西比利州議会副議長）其他「メンセウイク」乃至右翼「エス、エル」系ノ人士ハ前記中間派以上ニ「ジ」一派ノ行動ヲ非難シ之レ殆ド病的狂的ノ所為ニシテ今ヤ露国復興上過激派ニ対シ勝ヲ占ムル者ハ武力ニ依ル政権ノ争奪者ニ非ズシテ經濟的施設ノ成功者ナリ此ノ点ニ於テ日本ガ撤兵ヲ断行シ政治問題ヲ後ニシ通商問題ヲ露国ト協議スルニ至リタルハ賢明ノ処置ニシテ兩國ノ為ニ賀スベシ然ルニ白党一部ノ現暴挙ハ日本ノ撤兵ヲ延期セシメザルヤヲ恐ル此ノ憂ヲ予防スルニハ日本ガ懸橋トナリテ「ジ」一派ト張作霖ヲ結ビ附ケ白軍中不妥協分子ヲ東支線守備兵タラシムルトカ彼等ヲシテ平和生活ヲ得セシムルモ一策ナラン云々

（四）極左党ノ有力者ハ未ダ接触ノ機ヲ得ザルモ情報ニ依レバモ悦服シ居ラザルヲ以テ日本ノ撤兵ト共ニ結局壊滅スルヤナリ而シテ彼等ノ頼ミトスル白軍ガ忠順ナラズ地方農民党

一五 露国反過激派関係雑件 三三七

四二七

一五 露国反過激派関係雑件 三三八

四二八

從來當政權ハ共產黨一味ノ追放ニ努メタルモ今猶同党ニ共鳴性ヲ有スル当地労働界ハ既ニ内乱ニ厭キ偏ニ生活ノ安定

ヲ望メルモ赤白ヲ比較スレバ一般ニ前者ニ盲従的傾向ヲ有シ隠密ニ「ペルチザン」隊乃至共產党和聯繫ヲ保チツツ時機ノ到来ヲ窺ヒ居ル由現ニ九月十二日「ポドゴルノエ」村ニ於ケル「ペルチザン」大会ニハ「アヌチノ」「スーザン」「ニコリスク」浦潮沿「ハンカ」湖各地区及当州共產

党本部代表者及育多政府閣員「プリンキン」等參加シテ財政窮迫軍器良好ナラザルモ二万一千ノ軍勢ヲ以テ尚千五百ノ増援ニ依リ対白軍ノ準備ヲ議シタル（実否未詳）アリ兎ニ角赤側ハ疲弊シナガラ相当ノ運動ヲ計画セルモノノ如シ其ノ他地方農民及浦潮市民ノ一般ハ前頭ノ通極ク少數者タル「ジ」一派ノ曖昧ノ老人及小家主級等ヲ除ク外孰レモ「ジ」ノ行動ニハ積極的ニ反対ニシテ労働者及農民ノ大多數ハ素ヨリ商工業者知識階級モ今ヤ大勢上齊多乃至歐露政権治下ニ服スルノ已ムナキヲ自覺セルモノノ如シ（渡辺ハ前頭露人側ノ本省攻撃撤兵ニ對スル危惧等ニ対シテハ適當ノ反駁説明ヲ与ヘ白軍処分策等ニ対シテハ「コミット」セザル様応酬セリ）

松平ヘ電報セリ
註 堀政務部長發電第一六八号ヲ省略セリ

右ハ九月十五日ニコリスクニ開催ノ極東國民會議ニ於ケル

ジトリクス統監ノ演説ヲ杉野領事ヨリ報告セルモノナリ

三三八 九月二十五日 在浦潮堀政務部長ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

ボグラニチナヤニ於ケル張宗昌トジトリクス

等トノ会談ノ意図ニ關シ在浦潮中國總領事ノ
談話報告ノ件

第一八〇号

（九月二十五日接受）

「ボグラニチナヤ」駅ニ於ケル張宗昌中將過般来浦ノ使命如何ニ関シテハ本官着任以来折角探宄中往電第一七〇号ノ事実アリタルニ依リ渡辺ヲシテ当地范支那總領事ニ就キ該事実ト張ノ使命乃至當方面ノ時局ニ對スル關係如何等ノ諸点夫レトナク質サンメタルニ范ハ曩ニ張中將ガ自分ニ没交渉ニテ當地ニ來リ露國側ヨリ非常ノ歛待ヲ受ケタルコトアリ當時專ラ張ハ支那側ヨリ重要使命ヲ帶ベル如ク風評セルニ依リ為念北京ヲ經テ奉天側ニ確メタルニ張作霖ハ張中將ノ來浦ヲ聞知セザル旨電報セル趣回電アリ其ノ際右風説ニ對

シテハ我館員ヨリ當地新聞ニ打消シ宣明ヲ為シタル次第ナルガ自分ガ一方張中將ハ曾テ「ニコライ、メルクーロフ」

（元來商人ニシテ現外交部長タリ前「メ」首班ノ実兄）ガ

商業下請負ニ從事シタル當時ヨリ懇意ナリシ關係上現地位

ヲ得テ一般情況視察ノ為來浦シタルヲ以テ「メ」一派ガ個人的ニ彼ヲ優待シタリトノ說ト他方張ノ使命ハ武器購入運動ニアリタリトノ說ヲ聞込メルモ孰レガ真ナルヤ未ダ確メ得ザリシガ貴問「ポクラ」ニ於ケル「ジトリクス」及「メルクーロフ」等ノ答礼又ハ單ナル儀礼ノミトモ思ハレザル節アリ或ハ噂ノ如ク武器購入運動乃至ハ當方面ノ現状上

「ジ」一派ガ到底赤軍ニ対抗不可能ナルヲ自覺セル模様ナルヲ以テ最後ノ東支線落チノ準備運動ヲ為シ居ルニ非ズヤトモ考ヘラレザルニ非ズ要スルニ右ハ張中將乃至張作霖一派ノ各個行動又ハ「ジ」一派ノ窮策秘密運動乃至ハ「ジ」

党ノ對内的宣伝ヲ意味スルナラムモ其ノ真相ハ未ダ突止メ居ラズ尤モ此等運動ニ北京ガ何等關係シ居ラザルコトハ確言シ得ベシ云々

本電松平ヘ転電シ奉天ヘ郵送セシメタリ

一五 露国反過激派関係雑件 三四〇

創設ヲ切望スルヲ以テ若シ日本政府ニ於テ当政権ノ希望ヲ容レラルニ於テハ之等諸問題ヲ双方ノ容認シ得ベキ様解決シ得ベキコトヲ確信ス云々

註 九月二十八日堀政務部長発第一九八号末段ハ浦潮政権外交

部長「メルクーロフ」等ガ日本及「ジトリクス」政権間ノ商議乃至押収品ノ交付方ヲ熱望シ居ルコトヲ報告セルモノナリ

三四〇 十月四日 在浦潮政務部長ヨリ

内田外務大臣宛(電報)

ジトリクスノ杉野領事ニ対スル時局ニ闇スル

談話報告ノ件

第二二六号

(十月五日接受)

在「ニコリスク」杉野ヨリ左ノ通

第七号

大臣ヘ転電ヲ請フ

第四七号

十月三日執政官「ジトリクス」ヲ往訪シタル處左ノ如ク談話セリ

労農赤軍ハ少シツツ南下シツツ在ル模様ナルモ的確ノ数ヲ

テナリ

張作霖ハ哈爾賓ヨリ西方ヘハ赤ト手ヲ接シ哈爾賓ヨリ東方

ヘハ白ト手ヲ握ル如ク両面ノ「ボリチカ」ヲ行ヒ居ル様ナ

リ労農軍ハ後貝加爾ヨリ滿洲里ニ出デ道ヲ滿洲ニ求メテ満

洲ヲ経テ沿海州ヲ襲ハントノ計画ヲ飽迄遂行セント努メ居

ル模様ナリ

「スウチャーン」方面ニハ手ヲ伸ベズ現状維持ナリ討伐ノ為ス

兵力ヲ各所ニ割クハ現今ノ情勢之ヲ許サズ冬期ニ於テハ赤

部隊ヲ捕獲スル容易ナレバナリ

沿線ニ在ル各「バルチザン」ハ鉄道線路ニ破壊装置ヲ為ス

モ未然ニ發見シ得又近來ハ其裝置極メテ拙劣ナルガ為心配

スル程ノコトナシ

日本居留民ノ保護ハ当然我方ニ於テ為スペク又再ビ渡来セントスル者ハ十一月中旬ニセシコトヲ望ム(何カ確信アルガ如シ)尚産業及「コンセッショーン」等幾多ノ事業ハ此富源多キ地ニ見出シ得ベシ

総領事ヘ御伝ヘヲ請フ

四三〇

三四一 十月四日 在浦潮政務部長ヨリ

内田外務大臣宛(電報)

一五 露国反過激派関係雑件 三四一

知ルヲ得ズ四千ノ赤軍ハ我軍前線ニ對シテ布置サレアルヲ以テ我ハ之ガ備ヲ為シツツ在リ赤軍ハ寒氣迫ラザル此一月以内ニ大決戦ヲ為スニ急ギツツ在リ此期日ヲ過ギナバ防寒並給養ノ關係ニ於テ赤軍ハ困憊ノ境ニ立チ敗味ハ明ナリ自分ハ此決戦ノ時ヲ十月十五日以後十一月初旬迄ノ中ナリト思料シ居レリ此会戦ニ於テ勝利我ニアレバ出来得ル丈敵ヲ北ニ追撃スルニ止メ占領ヲ為サズ兵ヲ現在ノ勢力圏内ニ纏メテ軍政及内政整理ノ為内的充実ヲ図リ来春ノ機ニ於テ一層ノ成功ヲ致スベク努ムル心組ナリ

赤軍ノ目掛ケ居ルモノハ浦潮ノ滯貨及軍器ニシテ早ク取ツテ之ヲ売払ヒ主義宣伝費用ニ充テントスルニ外ナラズ今ヤ日本軍ノ撤退ニ伴ヒ之ヲ獲得セント頻リニ画策宣伝ヲ行ヒツツ在リ

浦潮ニハ約一千ノ白軍アルノミニテ厖大ノ危険物件ヲ護衛スルノ余力ナキヲ以テ自分ハ速ニ之ヲ売却シテ金ニ代ヘントス沢山ノ火薬武器ヲ要セズ目下最喫緊ノモノハ金ナリ其売却方差当リ張作霖ト交渉中(「メルクーロフ」外務部長ハ昨日当地ヲ通過奉天ニ向ヘリ)ナルモ掛引強クシテ商談骨折レルナリ何時モ話ガ「コンミッショーン」ニ外レルヲ以

往電第一四九号ニ關シ浦潮市長「アンドグスキー」將軍ハ十月四日出帆ノ鳳山丸ニテ当地出発十月十六日帰浦ノ予定ヲ以テ本邦ニ渡航セリ出発前日其來訪ヲ受ケ面会シタル処同市長ハ旅行ノ主ナル目的ハ市自治体ヲ代表シ市ノ經營ニ属スル道路電車及水道事業ニ關スル前回ノ交渉ヲ取纏メタキ希望ナ(脱)次テ往電第二〇五号外交部長「メルクーロフ」來翰ノ要旨帝国政府ヘ転達方ヲ確メタル上更ニ今回長春會議決裂後極東露領ノ諸問題ニ關シ本邦ニ於ケル輿論ヲ聽取シ同時ニ朝野ノ名士ニモ面会ヲ求メ當地政権ニ對スル意見ヲモ窺ヒタキ希望ナルカ目下「ジトリクス」將軍ノ率キル軍隊ノ士氣ハ旺盛ニシテ給養並ニ武装ノ点ニ於テモ極東共和国ノ軍隊ニ比シ遙ニ優り居リ日本軍ノ當地撤退後モ齊多軍ノ襲来ヲ擊退シ得ヘキコトヲ信シテ疑ハスト語リ更ニ転シテ今後當地政権ノ領域内ニ於ケル森林鉱山漁業等ノ經濟的諸問題ニ關シ日露兩國民カ提携スルコトハ最モ望

マシキ所ニシテ此際是等諸問題解決ノ為日本政府ト当地政権トノ間ニ日露ノ会商出来得ヘキ見込アリヤ私見ナリトモ承知シタシト云ヒ其ノ口吻ニ依リ今回市長ノ旅行ハ表面市ノ要務ヲ口実トシ實際ハ長春會議決裂後當地政権ニ対スル帝国ノ輿論並日露会商ニ関スル帝国政府ノ態度ヲ「サウンド」スルニアルモノト感知シタルヲ以テ本官ハ長春會議開始前東京ヲ出発シ着任後右決裂シタルヲ以テ政府ノ意向ヲ承知シ居ラサルモ現下帝国ノ情勢ヨリシテ此際當地政権トノ間ニ前記諸問題ニ関シ直ニ日露交渉カ開始セラルルカ如キコトハ難シカルヘク恐ラクハ満足ナル結果ヲ得ラルルコトハ因難ナルヘキ旨ヲ單ニ私見トシテ洩ラシ置キタリ

尚同日同市長ハ当部川角ヲ介シ立花軍司令官ニモ会見シ日本軍ノ撤退モ切迫シタル処現今市民ノ数ハ十五万以上ニ達シ且各地方ヨリノ避難民多ク中ニハ不良ノ分子少カラス市内辺鄙ノ街区ニ於テハ内外市民不安ノ状態ニアルヲ以テ其生命財産ノ保護安全ヲ期スル為ニハ二年前ニ民警ニ交付セラレタル千五百挺ノ銃器ニテハ不足ナルヲ以テ此際更ニ七百挺ノ銃器ヲ民警用トシテ下付アリタキ旨要請シニ対シ軍司令官ハ目下押収物件問題ニ関シテハ内外ニ物議ヲ釀シ

画策シ居ルモノノ如シ尚同政府駐日代表「グリゴリエフ」ハ「メルクーロフ」トハ今日迄一回会見セルノミニシテ冷淡ナル態度ヲ持シ居リ同人トハ全然別行動ニ出テ昨今ハ資金ノ獲得ニ熱中シ去ル二日ノ如キハ末永節ヲ訪問シテ我軍保管ノ浦塙武器及軍需品ノ引渡並ニ壳却ニ関シ援助ヲ乞ヒタル事実アリ今之等ニ対シ親シク会談意見ノ交換ヲ為シタル西原龜三及末永節等ノ言ヲ略記センニ

一、本月一日麻布区桜田町二七料理店奥都庵ニ於テ「アントノフ」ハ「マツオーキン」ヲ通訳トシテ西原龜三外三名ト会談シタルガ其ノ内容ニ関シ西原龜三ノ語ル所大要左ノ如シ

「アントノフ」ト会見セルハ代議士中野正剛ノ紹介ニ依ルモノニシテ其節席ニ在リタルハ中野正剛、升本卯平、長島隆一等ニシテ「アントノフ」等ハ露國ノ現状ニ就テ説明シ前記諸氏ヨリ種々ナル質問ヲ為シ「アントノフ」ハ一々之ニ答ヘタルカ要スルニ彼ノ談話ハ平凡ニシテ何等危険ト認ムヘキモノナシ彼ハ長春會議ニ対スル意見ヲ尋ネタルニ付余ハ之ニ対シ「帝政當時ニ於テハ多少露國人ニ友人ヲ有シタルモ革命以來露国人ト交際シ居ラス隨

居ル折柄先方ヨリ調書ヲ徵スルト共ニ軍ニ於テモ細密ナル調査ヲ行ヒテ右保安上果シテ右銃器ノ交付カ必要ナリト認メラルニ於テハ所定ノ手続ニ依リ右市長ノ希望ニ副フヘキ様取計フヘキ旨応答セラレタル趣ナリ

三四二 十月五日

警視給監ヨリ
外務省歐米局長宛

過激派アントノフ及反過激派グリゴリエフノ

活動二閏スル件

外秘乙第三三九号

大正十一年十月五日

(十月六日接受)

長春會議決裂後留露國人中過激及反過激派系人物ハ愈々緊張ヲ呈シ來リ互ニ暗中飛躍ヲ試ミ殊ニ「アントノフ」ハ近來伝手ヲ求メテ本邦朝野ノ有力者ト會見シ其對露感想ヲ採リ且ツ經濟的援助ヲ懇請シ居リ現ニ去ル一日中野正剛ヲ介シ西原龜三、長島隆一等ト會談シ經濟上ノ助力ヲ求メタル事実アリ一方反過激派系ニ於テハ目下東京駅「ホテル」ニ滯在中ナル前浦塙政府首班「メルクーロフ」ノ如キハ長春會議決裂後ハ遽カニ色メキ來リ頻リニ現浦塙政府首班「デトリックス」將軍ト電信及書信ノ交換ヲ行ヒ何事カ

テ露國ノ事情ヲ知ラス我外務省カ如何ナル考ニテ折衝シ居ルヤ新聞紙等ニ依リテ知ル位ナレハ之ニ対シテハ何等ノ意見ヲ述フルヲ得サルモ要スルニ日本ニ於テハ勞農政府ヲ毛虫ノ如ク毛嫌ヒシ居リ隨テ其ノ実情ヲ誤解シ居ル点モ多カルヘク又露國側ニ於テモ日本ニ対シ誤解シ居ル点アリ如斯双方誤解ノ為不結果ニ終リシモノナルヘシ」ト答ヘタルニ「アントノフ」ハ日本新聞紙ニハ「ヨツフェ」カ日本ニ対シ勞農露國ノ承認ヲ求メタルカ決裂ノ原因ノ如ク報セラルモ右ハ誤リニシテ勞農露國ハ從来英國ト同盟ノ間柄ニ在リシ日本カ英國ニ率先シテ勞農露國ノ承認ヲ為スカ如キコトナキハ露國ノ夙ニ知ル所ナルヲ以テ此際日露兩國民ノ經濟的提携ノ要アリト説キ進ンテ余ニ対シ援助ヲ希望シタリ余ハ之ニ対シ日本ハ嘗テ英國ト同盟條約ヲ結ヒタルカ支那ニ於ケル兩國民ノ利害ハ一致セス終ニ廢棄セラルニ至レリ之レ兩國民ノ經濟的利害一致セサルニ依ル日露兩國ハ須ク互ニ經濟的向上ヲ図リ両國ノ經濟關係密接ナルニ至レハ其ノ親善ハ期セスシテ得ラルヘク故ニ先ツ經濟生活ノ根本的確立ヲ第一着手ト為スラ要ス尚其援助ニ就テハ熟考シ置クヘキ旨ヲ答ヘ

一五 露国反過激派関係雑件 三四三

四三四

再会ヲ約シテ別レタリ

要スルニ「アントノフ」ハ未知ノ人物ナルヲ以テ彼ノ希望ニヨリ如何ナル人物ナルヤ又如何ナル話ヲ為スヘキカトノ好奇心モアリテ会见ヲ承諾シタルニ彼ノ語ル所案外平凡ニシテ而モ彼ハ立派ナル紳士ナリ彼ニ対シ日本ノ社会ハ何故ニ警戒スルヤヲ怪ミタル程ナリ故ニ彼等ノ宣伝ヲ恐ルルヨリモ寧口我陸海軍内ニ目下瀰漫シツツアル過激派（陸海軍上級將校中ニ我外交ノ軟弱ナルヲ憤慨シ不平ヲ懷キ居ルモノ多キヲ言フ）ノ取締コソ一層必要ナラン云々

一、沿黒龍地方執政官駐日代表「デミトリー、グリゴリエフ」ハ本月二日府下豊多摩郡千駄ヶ谷原宿一七〇番地肇国会末永節方ヲ訪問セルカ末永ハ右ニ閑シ大要左ノ如ク語レリ

余ハ黒龍会ノ牛島氏ノ紹介ニテ露国人「グリゴリエフ」ト會見セルカ彼ノ來レル要件ハ我軍ノ保管セル軍需品等ノ引渡シヲ受ケ之ヲ売却シテ彼等ノ運動費ニ充テントスルモノナルモ「グリゴリエフ」ハ右物品ノ品目スラ詳細ニ承知シ居ラサル始末ナリ而シテ彼ハロヲ極メテ赤化ノ危険ナルヲ説キタルヲ以テ余ハ日本ニ於テハ赤化宣伝ヲ

ト恐ルルヨリモ寧口我陸海軍内ニ目下瀰漫シツツアル過激派（陸海軍上級將校中ニ我外交ノ軟弱ナルヲ憤慨シ不平ヲ懷キ居ルモノ多キヲ言フ）ノ取締コソ一層必要ナラン云々

三四三 十月九日 在浦潮堀政務部長ヨリ

内田外務大臣宛（電報）

浦潮政権ノ没落迫レル状況ニ付報告ノ件

第二四六号

（十月十日接受）

当方面ノ情勢ハ往電第一〇四号報告ノ通り大体白側ノ運命ハ時日ノ問題トナリ居ル處最近ノ形勢ハ右時日ガ稍々切迫シ来レルヤノ觀アラシムルモノアリ即往電第二三九号赤側其ノ他ノ情報ニ依レバ相当優勢ノ赤軍援隊（赤側ノ報ニ依レバ約七千ノ「バルチザン」ノ外赤軍全部ハ國民革命軍約一万四千及第五「ソビエット」軍約五千アリト称ス）ガ此ノ程「イマン」烏蘇里方面到着ト共ニ赤側ハ一方尼市占領ノ目的ヲ以テ烏蘇里線ニ沿ヒ漸次南進行動ヲ開始シ「スイヤギノ」ハ已ニ赤軍ニ帰シ「タウエ」河谷ヨリ尼市北方

「イバノフカ」ニ迂回シタル優勢ナル騎兵集團ハ「スペスコエ」ニ退却セル白軍ノ退路ヲ脅カシ「スペ」ハ已ニ赤ニ帰セリトノ報モアリ他方蘇城線「シコトワ」方面及「ウゴリナヤ」「デヴドリノエ」方面ノ赤「バル」ハ尼市浦潮間ノ鉄道及電信線等ヲ頻リニ破壊シ（十月六日「キパリソフ」方面ニテ二十六ヶ所ヲ破壊セリ）各所ニ出没シテ白軍ノ行動ヲ妨ゲ兩市間ノ聯絡ヲ断タンコトヲ期シアリ之ガ為当地白軍司令部ガ囊ニ士官校及幼年校生徒隊ヲ「スペ」ニ送リタルニ敗残ノ結果約六十名ノ負傷者ハ八日当地ニ後送セラレ予備民警ヲモ前線ニ輸送セントセル由ニテ各方面ニ於テ赤側ガ積極的ナルニ対シ白側ハ受身ノ悲境ニ立テリ而シテ双方ノ士氣軍紀如何ハ白側幹部ガ其ノ良好ヲ吹聴スルモ捨てク統一聯絡ヲ欠キ士氣昂ラザルハ事実ニシテ其後援タル可キ後方人民ハ「ジトリクス」ノ統癡シタル学生迄ヲ驅出サントスル無謀ノ徵兵令及乱暴ナル戰費徵發令等ハ予テ「ジ」一派ノ政策ニ積極的反対態度ヲ持シタル當地資産及知識階級一般ノ反感ト呪ヲ激発シ市民ハ徵兵忌避ト納稅怠慢ニ努ムルニ至リ遂ニ街上ニ於テ徵兵忌避者ヲ捕縛シテ投獄シ同

為スモ恐ルニ足ラストテ彼ノ所説ヲ反駁シ置キタルカ

彼ハ帝政當時ノ知事ト称スルモ頭古ク我等ノ考へ居ル所トハ大ナル隔リアリ要スルニ「グリゴリエフ」ハ此際日本軍ノ保管ニ係ル軍需品ヲ売却シテ運動費トナスヘク余ニ援助方ヲ切願セルモノナルモ前述ノ次第故余ハ深ク考慮シ居ラス云々

一五 露国反過激派関係雑件 三四四 三四五 三四六

註 九月三十日堀政務部長兼外務大臣宛第二〇四号ヲ省略セリ

三四四 十月十四日 在浦潮堀政務部長ヨリ

内田外務大臣宛(電報)

浦潮政権ト張作霖政権トノ同盟構想ニ関スル

マルクーロフノ談話報告ノ件

(十月十四日接受)

第二六三号
十二日奉天ヨリ帰来セル外交部長「マルクーロフ」本官ヲ來訪シ往電第二〇五号同人ノ書翰ニ対シ何等日本政府ノ意図ヲ聞クヲ得ヘキヤ否ヤヲ問ヒタル後雑談ニ入りタルカ其内「メ」ハ自分ハ理想トシテ過激派ノ東漸ニ対シ共通ノ脅威ヲ感シソツアル當政権ト張作霖トカ日本ノ後援下ニ同盟ヲ結フコトヲ頗ル望マシキコトトシ今次奉天ニ於テ張作霖ニ其話ヲ持懸ケタルニ同人モ賛成ヲ表シタリト言ヘルニ付本官ハ右理想実現ノ為何等具体的計画ヲ立テラタル次第ナルヤヲ問ヘルモ「メ」ハ取止メタル考案ヲ有セサル様看取シタルヲ以テ別ニ追及モセス單ニ西比利亜及北滿ヨリ撤兵セムトスル日本ハ到底貴案ノ同盟ニ参加スル意図モ資格モナシト信スル旨半戯談的ニ申聞ケ置ケリ御参考迄

四五六 十月十五日 在浦潮堀政務部長ヨリ

内田外務大臣宛(電報)

浦潮政権ノ要人亡命ヲ図リツツアリ政情赤ニ

傾ク形勢ナル旨報告ノ件

(十月十六日接受)

第二六九号
往電第二六六号ニ関シ

形勢ノ急変ニ伴ヒ当政権ノ行政部司法部ノ重ナル官憲ニシテ家族又ハ自己ノ避難方法ニ関シ我軍憲ニ相談シ来ル者多シ「マルクーロフ」ノ如キ其ノ一人ナリ烏蘇里鉄道長官「カチエンコ」モ次便ノ鳳山丸ニテ出発ノ予定ナルカ如シ又「スタルク」將軍モ今後ノ形勢如何ニ依リテハ浦潮ヲ死守スル意ナク最近部下將士ノ避難方ニ付打合セノ為我陸海兩司令官ニ面会ヲ求メツツアリ此ノ如ク白派ノ主要人物ニシテ事実退去スルニ至ラハ市会ニ於ケル桃色党モ必然的ニ拾頭シ来ルヘク当方面ノ政情期セスシテ赤ニ傾キ来ルヘシ
註 十月十五日發第二六六号ヲ省略セリ右ハ「ジトリクス」ガ又「スタルク」將軍モ今後ノ形勢如何ニ依リテハ浦潮ヲ死守スル意ナク最近部下將士ノ避難方ニ付打合セノ為我陸海兩司令官ニ面会ヲ求メツツアリ此ノ如ク白派ノ主要人物ニシテ事実退去スルニ至ラハ市会ニ於ケル桃色党モ必然的ニ拾頭シ来ルヘク当方面ノ政情期セスシテ赤ニ傾キ来ルヘシ
註 「ニコリスク」ヲ維持スル能ハザル形勢ノ旨ヲ報告セルモノナリ

四五七 十月十七日

在浦潮松村總領事ヨリ

内田外務大臣宛(電報)

三四六 十月十七日 在浦潮松村總領事ヨリ

内田外務大臣宛(電報)

反過激派軍将校ノ家族ノ国外脱出ニ対シ日本側ノ便宜ヲ得度旨ジトリクスヨリ要請ニ付報

告ノ件

第二八五号
(十月十八日接受)

「ジトリクス」十七日朝特務機関五味大佐ヲ訪問シ外務省筋ニ御相談スヘキ事項ナカラ平素ノ関係上同官ニ御願スト前提シテ白軍將校ノ家族約六千名哈爾賓ニ送還シタク費用ハ負担スルニ付途中元山迄輸送ノ便宜ヲ得タシト述ヘタルニ付五味大佐ハ難問題ト考ヘタルニ付考慮ヲ遂クルニ到底全数ヲ元山迄撤退前ニ輸送スルコトハ困難ナルニ付第一案トシテ差当リ二千名文引受ケ残リハ「ロシア」島ニ收容シ

テ一時海軍力ニテ保護シ後漸次輸送スルコトスルカ又ハ着シ又「ジトリクス」一行及往電第二八七号「ラズトリノイ」ヨリ南下武装解除ヲ受クヘキ一千名ノ兵モ略同日頃義勇艦隊ニテ同地ニ赴ク筈ニテ若シ第二案ニ依レハ右家族ノ

軍ヲシテ元山ヘノ輸送ヲ引受ケシムル等将来ノ問題トシテ残スカ中央ノ指示ヲ仰クコトナレリ御参考迄尚「ポセット」ニハ「モルチャヤノフ」ノ部隊カ二十日ニ到着シ又「ジトリクス」一行及往電第二八七号「ラズトリノイ」ヨリ南下武装解除ヲ受クヘキ一千名ノ兵モ略同日頃義勇艦隊ニテ同地ニ赴ク筈ニテ若シ第二案ニ依レハ右家族ノ

軍ヲシテ元山ヘノ輸送ヲ引受ケシムル等将来ノ問題トシテ

残スカ中央ノ指示ヲ仰クコトナレリ御参考迄

尚「ポセット」ニハ「モルチャヤノフ」ノ部隊カ二十日ニ到

着シ又「ジトリクス」一行及往電第二八七号「ラズトリノ

イ」ヨリ南下武装解除ヲ受クヘキ一千名ノ兵モ略同日頃義

勇艦隊ニテ同地ニ赴ク筈ニテ若シ第二案ニ依レハ右家族ノ

第三二八号
(十月十七日接受)

マルクーロフノ談話報告ノ件

内田外務大臣宛(電報)

三四七 十月十七日 在浦潮松村總領事ヨリ

内田外務大臣宛(電報)

浦潮政権ト張作霖政権トノ同盟構想ニ關スル

マルクーロフノ談話報告ノ件

内田外務大臣宛(電報)

第三二九号
(十月十七日接受)

マルクーロフノ談話報告ノ件

内田外務大臣宛(電報)

一五 露国反過激派関係雑件 三四七

四三六

四三七

一五 露国反過激派関係雑件 三四八 三四九

四三八

地居留外人不可侵ノ事ヲ約サシムル為在本邦自國大使ノ承認ヲ求メタル後十月二十一、二日頃米領事ト共ニ尼市方面ニ出張赤軍當局ト交渉スル考ナル趣ナリ然ルニ杉野領事ノ希望モ有ルニ付同領事ヲシテ前任地ニ一時帰任ノ体裁ニテ

尼市方面ノ事情調査旁邦人保護ニ関スル打合セノ為单独又ハ英國領事一行ニ加ハリ出張セシムル筈ニ付此義御承認置相成度

三四八 十月十八日 在浦潮堀政務部長ヨリ
内田外務大臣宛（電報）
反過激派軍將校ノ家族ノ国外脱出ニ関シ我方

ノ採リツツアル措置ニ付報告ノ件

第二九二号

（十月十八日接受）

往電第一八五号ニ關シ第二案「ボセット」輸送ハ赤軍ノ侵出ノ現状ニ顧ミ不可能ナルヘシトノ見地ヨリ第一案ニ依ルコトトシ其ノ残部ハ總領事発大臣宛第三一八号ノ通「ロシア」島ニ收容スルコトナルヘキカ（米國領事ノ談ニ依レハ給養ノ問題モ決定セル次第ニアラスシテ單ニ米赤十字社及在東京米國大使ニ電照中ノ趣ナリ）尚第一案中ニテモ有力者ニ付テハ中央ノ指令ヲ俟タス現ニ余裕アル船舶ニテ元

山ニ輸送方軍ノ責任ニテ取計ラヒ中ナリ

三四九 十月二十日 内田外務大臣ヨリ
在浦潮堀政務部長宛（電報）
我浦潮派遣軍ノ押収軍需品引渡問題及浦潮現政權側ノ避難希望者ニ對スル取扱ニ關シ閣議

決定ノ件

第七〇〇号

十月二十日左ノ通閣議決定セリ尚押収軍需品引渡ニ付テハ

更ニ往電第七一号ノ通陸海軍大臣ト協議済ニ付右御承知アリタシ

押収軍需品ノ引渡ニ就テハ之ヲ地方自治団ニ移管スルコトニ八月二十二日閣議ニ於テ決定セル處最近ノ報道ニヨレハ浦潮市会ハ之レカ移管ニ應セサルノミナラス同市治安ノ維持ハ之ヲ領事團ニ委附スル旨決議シタル趣ナルカ若シ同地ニ於テ現市会ニ代ルヘキ權力団体（赤白ノ色彩ヲ問ハス）

出現スルニ於テハ押収軍需品ハ之ニ引渡スコトトシ差支ナキモ我最後梯隊ノ撤退ニ際シ押収軍需品ノ引渡ヲ受諾スルモノナキ場合ニハ右ハ現状ノ儘残置スルコトト致度又浦潮現政權側ノモノニシテ現下ノ事態ニ顧ミ避難ヲ希望

スルモノアル趣ナルカ右ノ内有力者及其家族ニ對シテハ我

權力範囲外ノ適當ナル地方ヘノ避難方ニ付人道上ノ見地ヨリ

応分ノ便宜（費用ハ一切彼等ノ負担トス）ヲ与フルコト致度

右往電第七一号ト共ニ總領事ヘ伝ヘラレタシ

三五〇 十月二十日 内田外務大臣ヨリ
在浦潮堀政務部長宛（電報）

赤軍側方押収武器引渡ヲ希望スル關係上浦潮

入市ヲモ希望スル場合ノ措置ニ付訓令ノ件

第七一号至急

目下ノ状態ニ於テ我軍ト赤軍トノ衝突ヲ見ルニ於テハ極メテ重大ナル結果ヲ惹起シ遂ニ收拾スルコト能ハサル事態ニ

陥ルヘキニヨリ此際出来得ル限り妥協ノ方法ヲ講スル必要

アリ就テハ赤軍側ニシテ武器引渡ヲ希望スル關係上強テ浦

潮入市ヲ希望スルニ於テハ日本軍ニ對シ挑戦的行動ニ出ツ

ルコトナク且市ノ秩序ヲ紊サザル条件ノ下ニ押収武器受領

ニ必要ナル兵數ノ入市ヲ許スコトニ二十日閣議ノ席上陸海

軍大臣ト協議済ニテ陸海軍司令部ニモ夫レ夫レ訓令アル筈

ナルニ付貴官ハ軍憲ト連繫ヲ保チ前記ノ趣旨ヲ以テ可然措

貴地目下ノ形勢ニ顧ミ白党ノ勢力ヲ盛り返スカ如キ画策ヲ試ムルニ於テハ市内諸般労働者ノ同盟罷工等ノ發生ヲ見ルヘキハ勿論赤軍ハ武器ノ散逸ヲ焦慮シテ聊モスレハ進軍セントスヘク殊ニ日本軍最後部隊ノ撤退間際ニ於テ市内ノ動亂ヲ見ル虞アルニ付日本軍カ予定計画ニ從ヒ平穩ニ撤退ヲ了シ得ヘキヤモ疑問ニ付セラルコトトナルヘク且又白赤抗争ノ勢ヲ増進シツツ撤兵ヲ為スニ於テハ白党ニ對スル赤軍ノ極端的行動ヲ惹起スル虞アルノミナラス延テ我居留民ニ対スル憎惡ノ念ヲ起サシメ危險ノ程度ヲ増大スヘキニ付渡スコト我方ニトリ極メテ有利ナルヲ以テ往電第六九号ノ通リ治安委員会ノ設立ヲ機宜ニ適スト認メ尚必要アル場合

一五 露国反過激派関係雑件 三五一

四四〇

ニハ往電第七一号ノ通り赤軍ノ入市ヲ許シ漸次赤化セシムルコトシ差支ナキコトニ決定シタル次第ナルニ付貴官ハ前記ノ趣旨ヲ体シ軍憲トモ打合ノ上機宜ノ措置ヲ講スルニ努メラレタシ

註 十月二十日内田外務大臣発第六九号ヲ省略セリ右ハ我軍引揚ノ際押収武器ヲ引渡スベキ保安委員会ヲ浦潮ニ設立セシムル様処置方ニ閔スル訓令ナリ

三五一 十月二十一日 内田外務大臣ヨリ
在浦潮堀政務部長宛（電報）

白軍殘党ハ成ルベク浦潮ニ止ムルト同時ニ彼等ガ虐待セラレザル様列國領事ト共ニ赤側二対シ措置スベキ旨訓令ノ件

第七四号

白軍避難者ニ対スル我方方針ハ往電第七〇号及第七一號ニ御承知ノ通り白軍中ノ有力者及其家族ニ限り便宜ヲ与フルコト差支ナキモ其費用ハ自弁トスヘキ次第ニシテ我方引揚居留民トノ権衡上右以上ノ待遇ヲ与フルコト絶対的不可能ナルハ勿論陸軍側電報浦參六九五所載ノ如キ仏國領事ノ補助並ニ押収武器壳却ニヨル費用支弁ノ如キハ実現困難ナ

ルヘキノミナラス從来露国側ニ於テハ如此場合何等ノ準備ナク唯外國側ノ援助ニ訴ヘムトスルハ其例ニ乏シカラスシテ如此負担ハ到底之ニ応スルヲ得ス而シテ支那領ニ多数ノ避難民ヲ輸送セントスルモ支那政府ニテ拒絶スルナキヲ保セス万一彼等ニシテ費用ヲ自弁シ得サルトキハ或ハ朝鮮内ニ多数ノ窮民ヲ生シ結局露領へ退去セシメサルヘカラサルコトナルヘキニヨリ白軍殘党ハ可成之ヲ貴地ニ止メ一方赤側ヨリ残虐ノ待遇ヲ受ケシメサル様赤軍ニ対スル警告等ニヨリ措置スルヲ適當ト認ムル次第ナルニヨリ貴官ハ列國領事トモ打合ノ上右方針ニヨリ措置セラレ我方ニテ便宜ヲ与フルモノハ出来得ル限り少數ニ制限セラル様致シ度シ尚浦參牒七一三号ニヨレハ露國避難民ハ之ヲ「ルスキ」島ニ収容シ其給養ヲモ領事團ニ於テ負担スル旨同団ニテ決議セル越ナルカ右ハ事實ナリヤ事實ナリトセハ如何ナル意味ニ於テ給養ヲ引受ケタルモノナリヤ申ス迄モナキ儀ナカラ右給養引受ニ閔シテハ我方ニ於テ「コンミット」セラルルカ如キコトナキ様注意セラレタシ

右松村總領事ヘモ伝ヘラレタシ

註 十月二十日内田外務大臣発第七二号ヲ省略セリ右ハ白軍將

校ノ避難希望家族六千名ニ付テハ列國領事ヨリ赤軍代表ニ交渉シ彼等ヲ保護セシムルコトシ度旨（尤モ有力者及其家族ノ避難ニ付テハ前電閣議決定ノ通トス）ヲ電報セルモノナリ

三五三 十月二十三日 内田外務大臣ヨリ
在潭春佐藤領事代理宛（電報）

ジトリクス及其部下朝鮮ニ入ラントスル場合ニ於ケル取扱振ニ付指示ノ件

第三五号

在浦潮松村經由貴電ニ閔シ

「ジトリクス」及其部下貴地ニ到ル場合ニハ之ニ干渉スキ筋合ニアラサルモ若シ朝鮮ニ入ラムトスル場合ニハ一旦他国ニ竄入セル者ニ対シ更ニ保護ヲ加フルコトハ人道上ノ見地ヨリ云フモ必要ナキ次第ナルノミナラス朝鮮總督府及朝鮮軍ニ於テハ左ノ如ク取扱フ方針ナルヲ以テ右御含ミノ上可然措置アリタシ

イ、露國普通避難民ニ対シテハ總督府ニ於テ特種ノ事情アルモノ外旅行者ニ対スル正規ノ取扱ヲナスヘク内地旅券及見セ金ヲ所持セサル者ハ入国セシメス

一五 露國反過激派関係雑件 三五三 三四四

ロ、軍人軍隊ハ努メテ入国セシメサル処置ヲナスハ、万已ムヲ得ス遁入スル軍人軍隊ニ対シテハ軍ニ於テ武裝解除ヲナサシム

註 在浦潮松村經由佐藤領事代理ノ電報（松村總領事十月二十

一日発内田外務大臣宛第三三五号）ヲ省略セリ右ハジトリクス以下約四千名ガ潭春ヨリ朝鮮ニ入ラントスル場合ノ取扱振ニ付請訓セルモノナリ

三五四 十月二十三日 在浦潮堀政務部長ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

白党殘徒ノ浦潮止置案ニハ各領事ノ贊同ヲ得

件

第三三二号

（十月二十三日接受）

貴電第七四号白党殘徒ノ処分ニ閔シ松村總領事トモ協議シタルガ既ニ申進ジタルガ如ク彼等ノ自暴自棄的行為ガ当地ノ自然赤化ニ対スル大障礙ニテ滯在長引クダケ当地ノ政情（脱）白党殘徒ノ退去近キニアルヲ承知シテ内心喜ビ居ル次第ナレバ今更彼等ヲ殘留セシムル方針ニテ各領事ニ協議ヲ求ムルニ於テハ白党ノ乱行ニ対スル日本軍責任問題ヲ提

一五 露国反過激派関係雑件 三五五 三五六

四四二

起シ来ル等異論百出到底纏ル見込無キニ付僭越ナガラ本二
十三日ヨリ明日ニ互リ元山ニ輸送セムトスル軍ノ既定方針
ヲ阻止セザルコトニ申合セタルニ付御了知アリタシ

三五五 十月二十六日 内田外務大臣ヨリ
在奉天赤塚給領事宛（電報）

浦潮引揚ノ白軍力張作霖ト提携シ再起ヲ計画
ストノ報道ニ関シ張ノ顧問及特務機関ノ行動

監視方訓令ノ件

第一七九号

白軍浦潮引揚ニ関シ「ジトリクス」「メルクーロフ」等ハ
張作霖ノ計ラヒニ出タルモノノ如ク而シテ又張ハ白軍側ヨリ航
船及武器ヲ購入スルノミナラズ璋春竄入ノ露兵三千ヲモ奉
天ニ招致シテ吳佩孚ニ対抗セシメントストノ報道アリ右企
画ガ如何ナル程度迄実現セラルベキヤハ疑問ナルモ若シ邦
人ガ之ニ関係ヲ有スルガ如キコトアリトセバ左ナキダニ疑
惑ヲ招カントスルノ折柄帝国ノ真意ヲ誤解セシムル虞少カ
ラズ現ニ曾テ「セメノフ」ノ幕僚タリシ黒木予備中佐ガ浦
潮ヨリ朝鮮經由奉天ニ赴キ両者間ニ斡旋ノ労ヲ取ラントシ

尚貴電第四一六号末段軍事顧問ノ件へ目下慎重攻究中
北京、哈爾賓、長春、間島、吉林、琿春ニ転電アリ度シ
直ニ當方ニ電報セラレ度シ

三五六 十一月十五日 内田外務大臣ヨリ
在浦潮松村給領事宛（電報）

元山滯留中ノ白軍殘党浦潮ニ帰還ノ場合其安
全ヲ軍事革命委員会ヲシテ保障セシムル様矣

力方訓令ノ件

第二七〇号

貴電第三六二号及政務部長來電第三九五号ニ依レハ「ウボ
レウイッチ」ハ元山滯留中ナル白軍殘党及其ノ艦船ノ浦潮
帰還ヲ希望シ彼等ニ對シ生命其他ノ保障ヲ与フヘキ旨言明
セル趣ナル處當方ニ於テモ之等避難民ヲ白軍艦船ト共ニ浦
潮ニ帰還セシムルコトト致度ク就チハ之ニ先チ貴地領事団
ヨリ軍事革命委員会ニ交渉シ普通避難民ハ素ヨリ軍人ト雖

モ武装ヲ解キ平和ノ民トシテ帰還スル限り其身体ノ安全ヲ

保障スル旨文書ヲ取付ケ置クコトシ度ニ付貴官ハ領事団

ヲ勧誘シ人道上ノ見地ヨリ至急右ノ措置ヲ執ラシムル様尽

力セラレ度

堀ニ伝ヘラレ度シ

註 十一月八日松村總領事第三六二号及十一月十一日堀政務

部長發第三九五号ヲ省略セリ右ハ赤軍司令官「ウボレウイ
ツチ」ノ談話ヲ報告セルモノナリ

三五七 十一月十六日 在間島鈴木總領事ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

赤軍側ハ滿洲ニ入りタル白軍及避難民ノ帰國

スル者ニ危害ヲ加ヘザルコトヲ声明シタル件

第五二三号

（十一月十六日接受）

吉林督軍ヨリ延吉鎮守使著電ニ依レバ哈爾賓ニ於テ支那官
憲ト赤軍代表者ト交渉ノ結果赤軍側ハ支那地ニ逃ゲ入りタ
ル白軍及避難民ニシテ帰國スル者ニ対シテハ危害ヲ加ヘザ

ルコトヲ声明シタルニ依リ五站（東支鐵道沿線）（不明）
ノ分ハ統々帰還シ居リ延辺地方ノ分モ赤軍ト協商弁理スベ
シ云々トアリタル趣ナリ朝鮮總督、朝鮮軍司令官、第十九

一五 露国反過激派関係雑件

三五七 三五八

ルニ過キサル形ニ致度シトノコトナリ

四四三

將又露境ニ送ルヘキ在朝鮮避難民ノ生命安全ノ保障取付方ニ関シテハ我方ヨリモ露国側ニ対シ交渉スル要アリト御電訓ヲ請フ右ハ支那側交渉ノ結果ヲ見タル上更ニ電稟スル所アルヘシ

朝鮮總督ニ電報シ関東長官、長春、哈爾賓ニ暗送セリ

三五九 十二月十二日 澤田福岡県知事ヨリ
官宛 水野内務、内田外務及指定府府県長

病氣保養ノ為セメヨノフ將軍渡來ニ関スル件

高秘第二八八三九号 大正十一年十二月十二日 (十二月十九日接受)

福岡県知事 澤田 牛麿(印)

内務大臣 水野 錬太郎殿
外務大臣伯爵 内田 康哉殿

指定府府長官殿 グリゴリー、セメヨノフ 当四十年

右者本日午前八時四十分青島ヨリ汽船春日丸ニテ瀬尾栄太郎同伴門司入港シタルヲ以テ調査スルニ本人ハ本年八月迄天津仮租界及英租界等ニ居住其後青島浜町ニ転住シ居タルモ今回長崎県下ノ温泉地ニ於テ約二ヶ月間病氣保養ヲ為スベク渡來一応長崎「ジャパン、ホテル」ニ赴ク由ニテ予テ警保局長ヨリ入国許可取扱フ様電報アリタルヲ以テ入国許可シタルニ前記瀬尾及東京ヨリ出迎ノ為来門セル黒木少佐ト共ニ同日午前十時五十分門司駅発列車ニテ長崎ニ向ヒタルガ同人保養後ノ行動ニ就テハ未定ナリト称シ居タリ而シテ目下青島大村町福博病院ニ入院加療中ノ妻「エレナ」ハ退院ノ上同地「日昇ホテル」ニ引揚ゲ本月二十三日青島出帆ノ春日丸ニテ渡來門司上陸長崎ニ赴ク趣ナリ右及申(通)報候也

事項一六 日本国及極東共和国両政府間非公式交渉関係一件

一大連會議 関係 二長春會議 関係

一大連會議 関係

三六〇 一月三日 松島政務部長(大連出張中) ヨリ 内田外務大臣宛(電報)

日本側提出ノ文書ニ対スル極東共和国側ノ回答口上書受領ノ件

別電一 同右電報合第七四号

二 同右電報合第七五号

ペトロフ提出ノロ上書(一)

合第七三号 (一月四日接受)

合第七二号拙電ニ関シ

三日「ペトロフ」本官ヲ來訪シ別電合第七四号及合第七五号ノ通り口上書ヲ手交シタリ協約前文中ノ制度ナル文字ハ

一六 日本国及極東共和国両政府間非公式交渉関係一件

三六〇

露語ノ「ストロイ」ニシテ組織トモ訳シ得ヘシ

要塞撤廢問題ニ關シ「ペトロフ」ハ十二月三十一日言及シタル宣言案(前電ノ外反乱団体秩序破壞者ノ防遏並ニ海賊取締等ニ必要ナル軍事的措置ヲ講スルノ権利ヲ保留セリ)ヲ提示スル積リナリシモ事軍事ニ関スルニ付両國軍事委員会ニ協議ヲ為スコトトシタク此際提出ヲ差控ヘタリト云ヘリ

尼港事件解決案ニ関シ特ニ日本企業家ニ特權ヲ与フルハ北樺太ニ於テノミニシテ大陸ニ於テハ一般規定ニ依ルモノニシテ後者ニ就テハ基本協約ニ条文ヲ設クル以上尼港事件解決案中ニ記載スルノ必要無キニ付キ削除セリトノコトナリ

註 日外交文書大正十年第一冊下卷九八一文書ノ附記

一月三日松島政務部長発内田外務大臣宛電報合第七四号